

令和8年度

教育委員会の自己点検・評価報告書

（令和7年度事業対象）

令和8年8月

菊川市教育委員会

目 次

	ページ
1 教育委員会の点検・評価について	
1) 趣旨	2
2) 点検・評価の対象	2
3) 点検・評価シートの構成	2
4) 学識経験者の知見の活用について	3
5) 公表について	3
2 教育委員会の活動及び運営状況報告	
1) 教育委員会委員構成	4
2) 令和7年度教育委員会審議状況	5
(1) 菊川市教育委員会審議案件	5
(2) 菊川市教育委員会報告事項	8
3) 令和7年度教育委員会議以外の活動報告	9
3 自己点検・評価シート	
1) 教育委員会の活動「シート1」	11
2) 教育委員会が管理・執行する事務「シート2」	12
3) 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務「シート3」	13
こども政策課 事務事業評価	14
学校教育課 事務事業評価	19
教育総務課 事務事業評価	30
社会教育課 事務事業評価	36
図書館 事務事業評価	61
4 学識経験者の知見の活用	
1) 外部評価	70

1. 教育委員会の点検・評価について

1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会は毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取り組み状況について、教育委員会自らが点検評価を行うことが義務付けられています。

これは、教育委員会の今後の取組の方向性や課題を明らかにすることにより、政策効果、必要性、効率性等について、教育行政の一層の推進を図ることを目的としています。

また、結果に関する報告書を作成し、市議会へ提出するとともに一般市民に公表することにより、説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を目指してまいります。

2) 点検・評価の対象

点検・評価の実施にあたっては、令和7年度における教育委員会の活動や運営状況及び関係各課の事務事業を対象として点検評価を実施いたしました。

3) 点検・評価シートの構成

① 教育委員会の活動及び運営状況「シート1」

令和7年度における教育委員会の活動及び運営状況の報告を行うとともに、会議の運営改善・公開、情報発信等の活動や運営について、自らが行う事業や活動を中心に6つの項目に分け、点検事項として小項目を設け、各項目の点検評価を行いました。

② 教育委員会が管理・執行する事務「シート2」

法第21条の規定に基づき、教育委員会が自ら管理・執行する事項について、12の項目に分け構成しました。

上記の①と同様に、令和7年度における各事務の対応状況等について点検評価を行いました。

③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務「シート3」

法第25条第1項の規定に基づき、教育委員会が管理・執行を教育長に委任して行う事務・事業のうち、教育委員会事務局を構成する各担当課及び教育委員会の権限に属する事務の一部を補助執行する担当課が扱う施策ごとに体系図（菊川市教育振興基本計画による体系図）と点検評価のシートを作成し、施策を構成する主な事務事業の実施状況について点検し、評価を実施しました。

4) 学識経験者の知見の活用について

法第26条第2項の規定による「学識経験等を有する者の知見の活用」については、それぞれ関係する組織の代表者の皆様にお願ひし、評価結果に対するご意見をいただき外部評価としました。

外部評価依頼者

番号	氏 名	役 職	選出区分
1	宮島 明利	静岡大学教職大学院特任教授	学識経験のある者
2	板倉 真里	菊川市校長会会長	市内小中学校の代表者
3	松村 良枝	菊川市立小笠北認定こども園園長	市内認定こども園の代表者
4	中畠 るり子	菊川市社会教育委員会委員長	社会教育団体の代表者 (社会教育全般)
5	袴田 由貴子	菊川市文化協会会長	社会教育団体の代表者 (芸術文化)
6	岩水 素江	NPO法人菊川市スポーツ協会会長	社会教育団体の代表者 (スポーツ)
7	金子 淳二	横地城跡運営協議会会長	社会教育団体の代表者 (歴史・文化財)
8	三浦 康子	すいようおはなし会代表	社会教育団体の代表者 (読書活動)
9	江川 正徳	岳洋学舎学校運営協議会委員	学校運営協議会の委員
10	宮城 亜弓	小笠東小学校PTA副会長	子どもの保護者

5) 公表について

公表については、菊川市のホームページに掲載するとともに、市役所本庁や小笠支所、菊川文庫、小笠図書館に報告書を置き、閲覧できるようにいたします。

2. 教育委員会の活動及び運営状況報告

1) 菊川市教育委員会 委員構成

令和7年4月1日現在

職 名	氏 名	任 期	
教 育 長	赤 堀 智 生	任期	R7.4.1～R10.3.31
		教育長任期	R7.4.1～R10.3.31
委 員 (教育長職務代理者)	赤 堀 ひ と み	任期	R4.2.10～R8.2.9
		職務代理者任期	R4.2.10～R8.2.9
委 員	渡 邊 尚 司	任期	R5.2.10～R9.2.9
	粕 谷 友 一	任期	R6.2.10～R10.2.9
	藤 原 功 佳	任期	R7.2.10～R11.2.9

令和8年2月10日現在

職 名	氏 名	任 期	
教 育 長	赤 堀 智 生	任期	R7.4.1～R10.3.31
		教育長任期	R7.4.1～R10.3.31
委 員 (教育長職務代理者)	赤 堀 ひ と み	任期	R8.2.10～R12.2.9
		職務代理者任期	R4.2.10～R10.3.31
委 員	渡 邊 尚 司	任期	R5.2.10～R9.2.9
	粕 谷 友 一	任期	R6.2.10～R10.2.9
	藤 原 功 佳	任期	R7.2.10～R11.2.9

2) 令和7年度 菊川市教育委員会審議状況

(1) 菊川市教育委員会 審議案件

議案 番号	件 名	提 出 日		担 当 課
1	菊川市教育委員会教育長職務代理者を指名することについて	4月23日	定例会	教育総務課
2	準要保護世帯の認定について	4月23日	〃	教育総務課
3	菊川市就学支援委員会委員の委嘱について	4月23日	〃	学校教育課
4	菊川市小・中学校主任等の任命について	4月23日	〃	学校教育課
5	菊川市未来の部活動在り方検討会委員の委嘱について	4月23日	〃	学校教育課
6	菊川市地域コーディネーターの委嘱について	4月23日	〃	学校教育課
7	菊川市社会教育委員及び公民館運営審議会委員の委嘱について	4月23日	〃	社会教育課
8	菊川市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	4月23日	〃	社会教育課
9	菊川市文化財保護審議会委員の委嘱について	4月23日	〃	社会教育課
10	菊川城館遺跡群整備委員会委員の委嘱について	4月23日	〃	社会教育課
11	菊川市立図書館協議会委員の任命について	4月23日	〃	図書館
12	専決処分の承認について(教育財産の取得について)	4月23日	〃	学校教育課
13	準要保護世帯の認定について	5月23日	定例会	教育総務課
14	菊川市立学校給食センター運営委員会委員の委嘱及び任命について	5月23日	〃	教育総務課
15	菊川市いじめ問題対策連絡協議会委員及び菊川市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について	5月23日	〃	学校教育課
16	菊川市青少年健全育成市民会議常任委員の委嘱について	5月23日	〃	社会教育課
17	菊川市文芸誌編集委員会委員の委嘱について	5月23日	〃	社会教育課
18	菊川市子ども読書活動推進協議会委員の任命について	5月23日	〃	図書館
19	菊川市有形文化財の指定について	5月23日	〃	社会教育課
20	令和7年度一般会計補正予算(第1号)(案)について	5月23日	〃	教育文化部 連携調整室
21	準要保護世帯の認定について	6月20日	定例会	教育総務課
22	菊川市立学校給食センター運営委員会委員の変更について	6月20日	〃	教育総務課
23	専決処分の承認について(菊川市スポーツ委員の追加委嘱について)	6月20日	〃	社会教育課
24	準要保護世帯の認定について	7月18日	定例会	教育総務課
25	菊川市歴史検定委員会委員の委嘱について	7月18日	〃	社会教育課
26	準要保護世帯の認定について	8月21日	定例会	教育総務課
27	令和7年度菊川市教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	8月21日	〃	教育総務課
28	菊川市学校の未来を考える会委員の委嘱について	8月21日	〃	学校教育課
29	菊川市公民館条例の一部改正について	8月21日	〃	社会教育課
30	菊川市菊川文化会館アエル設置条例の一部改正について	8月21日	〃	社会教育課

議案 番号	件 名	提 出 日		担 当 課
31	菊川市黒田家代官屋敷資料館条例等の一部改正について	8月21日	〃	社会教育課
32	菊川市学校施設使用条例の一部改正について	8月21日	〃	社会教育課
33	菊川市陶芸施設の廃止及び菊川市陶芸施設条例の廃止について	8月21日	〃	社会教育課
34	令和7年度一般会計補正予算(第2号)(案)について	8月21日	〃	教育文化部 連携調整室
35	準要保護世帯の認定について	9月19日	定例会	教育総務課
36	菊川市スポーツ推進委員の追加委嘱について	9月19日	〃	社会教育課
37	専決処分の承認について(議第32号の撤回について)	9月19日	〃	社会教育課
38	令和7年度一般会計補正予算(第3号)(案)について	9月19日	〃	教育文化部 連携調整室
39	準要保護世帯の認定について	10月23日	定例会	教育総務課
40	令和7年度以降の給食費の額について	10月23日	〃	教育総務課
41	令和8年度給食実施の回数について	10月23日	〃	教育総務課
42	専決処分の承認について(菊川市立学校施設使用条例の一部改正について)	10月23日	〃	社会教育課
43	準要保護世帯の認定について	11月21日	定例会	教育総務課
44	学校医の委嘱について	11月21日	〃	学校教育課
45	菊川市公民館条例施行規則の一部改正について	11月21日	〃	社会教育課
46	令和7年度一般会計補正予算(第4号)(案)について	11月21日	〃	教育文化部 連携調整室
47	準要保護世帯の認定について(新規申請)	12月18日	定例会	教育総務課
48	準要保護世帯の認定について(入学前支給申請)	12月18日	〃	教育総務課
49	菊川市教育振興基本計画審議会条例の制定について	1月23日	定例会	教育総務課
50	令和8年1月以降の給食費の額について	1月23日	〃	教育総務課
51	菊川市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について	1月23日	〃	学校教育課
52	菊川市教育委員会教育長職務代理者を指名することについて	2月9日	定例会	教育総務課
53	菊川市区域外就学に関する事務取扱要綱の一部改正について	2月9日	〃	学校教育課
54	菊川市指定学校変更事務取扱要綱の一部改正について	2月9日	〃	学校教育課
55	菊川市立小・中学校学籍事務取扱要領の一部改正について	2月9日	〃	学校教育課
56	菊川市学校の未来を考える会委員の委嘱について	2月9日	〃	学校教育課
57	議第10号菊川城館遺跡群整備委員会委員の委嘱についての訂正について	2月9日	〃	社会教育課
58	令和7年度一般会計補正予算(第6号)(案)について	2月9日	〃	教育文化部 連携調整室
59	令和8年度一般会計当初予算(案)について	2月9日	〃	教育文化部 連携調整室
60	令和8年度教職員の人事異動について	3月2日	臨時会	学校教育課
61	菊川市教育委員会事務局組織規則の一部改正について	3月25日	定例会	教育総務課
62	菊川市教育委員会職員の職の設置等に関する規則の一部改正について	3月25日	〃	教育総務課

議案 番号	件 名	提 出 日		担 当 課
63	菊川市特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部改正について	3月25日	〃	教育総務課
64	菊川市教育振興基本計画策定委員会設置要綱の廃止について	3月25日	〃	教育総務課
65	菊川市教育振興基本計画庁内推進委員会要綱の制定について	3月25日	〃	教育総務課
66	菊川市学舎ディレクターの委嘱について	3月25日	〃	学校教育課
67	菊川市地域コーディネーターの委嘱について	3月25日	〃	学校教育課
68	菊川市学校運営協議会委員の委嘱について	3月25日	〃	学校教育課
69	菊川市教育振興基本計画審議会委員の委嘱及び任命について	3月25日	〃	教育総務課
70	学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について	3月25日	〃	学校教育課
71	菊川市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部改正について	3月25日	〃	学校教育課
72	菊川市立小・中学校文書取扱要領の一部改正について	3月25日	〃	学校教育課
73	菊川市立小・中学校処務規程の一部改正について	3月25日	〃	学校教育課
74	菊川市立小・中学校出退勤記録管理要領等の一部改正について	3月25日	〃	学校教育課
75	菊川市立学校備品取扱要領の一部改正について	3月25日	〃	学校教育課
76	教育財産の取得について(学習者用パーソナルコンピュータの新規購入)	3月25日	〃	学校教育課
77	菊川市スポーツ推進委員の委嘱について	3月25日	〃	社会教育課
78	菊川市スポーツ委員の委嘱について	3月25日	〃	社会教育課
79	菊川市立学校施設使用条例施行規則の一部改正について	3月25日	〃	社会教育課
80	菊川市立学校施設の利用に関する規則の廃止について	3月25日	〃	社会教育課
81	スポーツ大会出場又は団体に対する菊川市教育委員会奨励金支給要綱の一部改正について	3月25日	〃	社会教育課
82	菊川市家庭教育学級事業事務取扱要領の一部改正について	3月25日	〃	社会教育課
83	令和8年4月1日付け教育委員会事務局職員の人事異動について	3月25日	〃	教育総務課

令和7年度は合計で83件について審議を行いました。

令和8年1月定例会から「準要保護世帯の認定について」は報告事項とした。

(2) 菊川市教育委員会 報告事項

番号	件名	提出日		担 当 課
1	令和7年度 菊川市当初予算概要、施政方針及び市の組織等について	4月23日	定例会	教育文化部 連携調整室
2	令和7年度 教育委員会事務局 部の運営方針、組織及び事務等について	4月23日	〃	教育文化部 連携調整室
3	教育大綱の策定方針及びスケジュールについて	5月23日	定例会	教育総務課
4	休日の部活動の地域展開の進捗状況及び計画について	6月20日	定例会	学校教育課
5	市有財産の取得について(学習者用パーソナルコンピュータの新規購入)	9月19日	定例会	学校教育課
6	第2次菊川市教育大綱の策定について	10月23日	〃	教育総務課
7	全国学力・学習状況調査の結果について	10月23日	〃	学校教育課
8	令和8年度学校評価に係る市内小中学校統一項目について	12月18日	定例会	学校教育課
9	令和8年菊川市はたちの集いについて	12月18日	〃	社会教育課
10	準要保護世帯の認定について	1月23日	定例会	教育総務課
11	菊川市教育委員会委員の任命について	1月23日	〃	教育総務課
12	教育委員会行事等予定(令和8年2月～4月)について	1月23日	〃	教育総務課
13	令和7年度卒業式・令和8年度入学式日時及び出席管理者(案)について	1月23日	〃	教育総務課
14	令和8年度定例教育委員会及び学校訪問等の日程(案)について	1月23日	〃	教育総務課
15	準要保護世帯の認定について	2月9日	定例会	教育総務課
16	令和7年度離任式・令和8年度着任式について	2月9日	〃	学校教育課
17	準要保護世帯の認定について(新規申請)	3月25日	定例会	教育総務課
18	準要保護世帯の認定について(継続認定)	3月25日	〃	教育総務課
19	菊川市PTA連合会の解散について	3月25日	〃	学校教育課
20	令和8年度定例教育委員会及び学校訪問等の日程について	3月25日	〃	教育総務課

3) 令和7年度 教育委員会議以外の活動報告

(1) 学校及び教育施設訪問

小学校5校、中学校2校、認定こども園1園及び教育施設1箇所の訪問を実施しました。

訪問日	訪問施設	訪問日	訪問施設
5月23日	小笠東小学校	10月23日	牧之原小学校
6月20日	内田小学校	11月21日	菊川西中学校
7月18日	小笠南小学校	12月18日	小笠北認こども園
8月21日	スポーツ協会	1月23日	菊川東中学校
9月19日	河城小学校		

(2) 会議・研修会

教育長及び教育委員を対象とした、次の会議及び研修会に参加しました。

開催日	会議・研修名	出張先	出席者
4月9日	静岡県市町教育委員会教育長会	静岡市(県庁)	1名
4月11日	第1回静西市町教育長連絡協議会	掛川市	1名
4月23日	静岡県市町教育委員会連絡協議会総会	富士市	1名
4月25日	静岡県都市教育長協議会総会	沼津市	1名
5月8～9日	関東地区都市教育長協議会総会	東京都北区	1名
6月28～29日	教育行政トップリーダーセミナー(前期)	東京都	1名
7月7日	第2回静西市町教育長連絡協議会	掛川市	1名
7月22日	3市教育長会議	菊川市	1名
8月7日	静岡県市町教育長研修会	島田市	1名
10月3日	第3回静西市町教育長連絡協議会	掛川市	1名
10月9日	3市教育長会議	菊川市	1名
11月5～6日	菊川市教育委員会視察研修	石川県加賀市	5名
11月17日	第4回静西市町教育長連絡協議会	掛川市	1名
11月29～30日	教育行政トップリーダーセミナー(後期)	東京都	1名
1月16日	3市教育長会議	菊川市	1名
1月29日	静岡県市町新任教育委員研修会	掛川市	1名
2月5日	3市教育長会議	菊川市	1名

(3) 各種行事・大会

その他、次の各種行事・大会に参加しました。

開催日		行事・大会名	
開催月	行事・大会名	開催月	行事・大会名
4月	1日:教職員着任式 3日:菊川市スポーツ少年団結団式 7日:小・中学校 入学式 12日:菊川市文化協会総会 13日:スポーツ委員研修会	10月	25・26日:菊川市文化祭
5月	24日:市内高等学校野球大会 28日:菊川市スポーツ協会総会 30日:中学生ふるさと未来塾(菊川東中)	11月	2日:スポーツレクリエーションフェスティバル KIKUGAWA2024 4日:こころの劇場 16日:第26回静岡県市町対抗駅伝競走 大会菊川市選手団結団式
6月	13日:青少年健全育成市民会議常任 委員会 14日:体力測定会 & 健康チェック	12月	1日:ICT環境等を生かした 魅力ある授業づくり研修会 6日:第26回静岡県市町対抗駅伝競走 大会 12日:県下一斉冬季青少年街頭生活指導 21日:第21回菊川Cityマラソン
7月	1日:県下一斉夏季青少年街頭生活指導 5日:おはなしステーション 17日:小谷村立小谷小学校との交流会 (内田小)	1月	11日:令和8年菊川市はたちの集い 17日:スポーツ少年団交流会 18日:第22回菊川市民健康駅伝競走大会 25・26日:小谷村スキー体験教室 31日:第21回菊川市書き初め展表彰式
8月	5日:学び続ける教員研修会 22日:小笠地区社会教育委員研修会	2月	8日:ペタボード交流会 22日:第15回深蒸し茶の里'菊川ファン駅伝
9月	14日:市町対抗駅伝競走大会菊川市選考 記録会 18日:中体連東海大会以上出場部活表敬 訪問 24日:中学生ふるさと未来塾(菊川西中)	3月	1日:ビーチボール交流会 19日:小・中学校 卒業式 26日:市子ども会連合会総会 27日:教職員離任式

[自己点検・評価]

シート 1		(大項目)	教育委員会の活動										
表の見方 シート1 シート2		実現度 ↑ <table border="1"> <tr><td>A</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>B</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>C</td><td>B</td><td>A</td></tr> </table> →重要度	A			B			C	B	A	実現度 A=達成又はほぼ達成している。(80%以上) B=概ね達成している(60%以上80%未満) C=努力を要する。(60%未満) 重要度 A=非常に重要 B=重要 C=緊急性は低い	
A													
B													
C	B	A											
中項目	小項目	点検・評価											
(1)教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会会議の開催回数	実現度 ↑ <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度										・定例会を12回、臨時会を1回開催し、83件の議案について審議した。	
②教育委員会会議の運営上の工夫	実現度 ↑ <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度										・会議時間の短縮に努めた。 ・資料の事前配布を行った。 ・定例教育委員会の開催年間スケジュールを作成した。		
(2)教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	①教育委員会会議の傍聴者の状況	実現度 ↑ <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度										・令和7年度は、定例会に延べ1名の傍聴があった。	
②議事録の公開、広報・公聴活動の状況	実現度 ↑ <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度										・令和7年度は、会議録等の資料公開要求がなかった。		
(3)教育委員会と事務局との連携	○教育委員会と事務局との連携	実現度 ↑ <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度										・教育委員会会議の開催前に事前打合せを行った。	
(4)教育委員会と首長の連携	○教育委員会と首長との意見交換会の実施	実現度 ↑ <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度										・令和7年度は、総合教育会議に3回参加した。	
(5)教育委員の自己研鑽	○研修会への参加状況	実現度 ↑ <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度										・静岡県市町教育委員会連絡協議会や県市町新任教育委員研修会等に参加した。また、石川県加賀市への視察研修も実施した。 ※P9 会議・研修会参照	
(6)学校及び教育施設に対する支援・条件整備	①学校訪問	実現度 ↑ <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度										・市内の市立小中学校への訪問を6校(小学校4校、中学校2校)、牧之原市菊川市学校組合立小中学校への訪問を1校(小学校1校)実施し、各学校の概要の把握、授業参観、フリートーク方式による意見交換を行った。	
②教育施設の訪問	実現度 ↑ <table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> →重要度										・市内の教育施設への訪問を2箇所(小笠北認定こども園、スポーツ協会)実施し、施設の概要の把握、施設内見学、フリートーク方式による意見交換を行った。		

シート 2		(大項目)	教育委員会が管理・執行する事務									
中項目	小項目	点 検 ・ 評 価										
(1)教育行政の運営に関する基本方針を定めること	実現度 ↑ <table><tr><td>A</td><td></td><td></td></tr><tr><td>B</td><td></td><td></td></tr><tr><td>C</td><td>B</td><td>A</td></tr></table> →重要度	A			B			C	B	A	・「菊川市教育振興基本計画(R6～R8)」を令和5年度に策定済み。	
A												
B												
C	B	A										
(2)教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> →重要度										・令和7年度は、20件の規則、要綱等の制定、改正及び廃止を行った。	
(3)教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> →重要度										・当初予算案及び補正予算案を議案上程した。 ・議会の議決に付すべき財産の取得について、議案上程した。	
(4)教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> →重要度										・令和7年度は議案はなかった。	
(5)教育委員会事務局及び教育機関の職員の任免その他の人事に関すること(県費負担教職員の任免を除く)	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> →重要度										・教育委員会事務局に属する職員の人事異動について、議案上程し、審議をした。	
(6)県費負担に係る校長の任免その他の人事の内申に関すること	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> →重要度										・次年度学校長の人事異動案について審議し、内申を行った。	
(7)県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> →重要度										・次年度教職員等の人事異動案について審議し、内申を行った。	
(8)教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱に関すること	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> →重要度										・教育委員会が任命・委嘱する人事案件はすべて上程し、審議をした。	
(9)教科用図書の採択の決定に関すること	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> →重要度										・令和7年度は議案はなかった。	
(10)通学区域を設定し、又は変更すること	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> →重要度										・令和7年度は、1件の議案について審議した。 (内田小学校に通級指導教室が新規開設されることに伴う、通学区域の変更)	
(11)文化財を指定し、又は指定を解除すること	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> →重要度										・令和7年度は、1件の議案について審議した。 (菊川市有形文化財「嶺田用水関係文書」の指定)	
(12)請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関すること	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> →重要度										・令和7年度は、教育委員会に対する請願、陳情、訴訟及び異議の申立てはなかった。	

シート 3

教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

点検評価シート(重点施策)

菊川市教育振興基本計画における成果指標に対する実績値を記載したものの。計画は令和6年度から令和8年度までの計画期間であり、今回は令和7年度の実績値を記載した。

点検評価シート(施策)の実績評価

A=十分な成果があり、施策の目的が達成された。
B=一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。
C=十分な成果が得られず、改善が必要である。

担当課名	番号	重 点 施 策（大 分 類）	ページ		
			重点 施策	施策	
こども政策課	①	幼児教育・保育の質の向上	15	16	
	②	地域社会・幼稚園・保育園・認定こども園・小中学校との連携	15	17	
学校教育課	①	小中一貫教育「学びの庭」構想の推進	20	23	
	②	ICT環境等を生かした魅力ある授業づくり	20	24	
	③	思いやりに満ちた学校づくり	21	25	
	④	「一人ひとりが生きる教育」の推進	21	26	
	⑤	こころざしを持った頼もしい教職員の育成	22	28	
	⑦	安全で安心して教育が受けられる環境づくり	22	-	
教育総務課	⑥	学校施設の適正な維持管理・耐震化・長寿命化	31	32	
	⑦	安全で安心して教育が受けられる環境づくり	-	33	
給食センター (教育総務課)	⑧	安全でおいしい給食の安定的な提供	31	34	
社会教育課	①	社会教育	地域で子どもを守り育てる活動の推進	39	44
	②		家庭の教育力向上	39	46
	③		生涯学習活動の推進	40	47
	④		鑑賞機会の提供	40	47
	⑤		市民の文化・芸術活動への支援	41	48
	⑥	文化振興	文化財の保存・周知・活用	41	50
	⑦	スポーツ振興	誰もがスポーツに触れあう機会の創出	42	53
	⑧		スポーツ団体・スポーツ活動への支援	42	57
	⑨		スポーツ活動の場の提供	43	59
図書館	⑩	子どもの読書活動の推進	62	64	
	⑪	読書機会の提供と読書活動の啓発	62	66	
	⑫	読書環境の整備	63	68	

基本理念	「豊かな学びで歩み続ける人づくり」	
「豊かな学びで歩み続ける人」とは	～自立した人、思いやりのある人、いつまでも学び続ける人～	
基本方針	1 生涯にわたる人格形成の基礎を培う教育・保育の推進【幼児教育】	
重点施策(大分類)	施策(中分類)	主要事業(事務・事業)
① 幼児教育・保育の質の向上 (こども政策課)	(1) 子どもの発達や特性を踏まえた計画的な教育の推進と体験を通して、興味・関心・意欲をふくらめる教育の推進	ア 指導計画の更新
		イ 市内公立園研修会・市内公私立園職員研修会の開催
		ウ 各種園行事の充実
	(2) 保護者との連携	ア 家庭教育学級への参加
		イ 保護者の保育参加の推進
		ウ PTA活動、保護者会協力活動
	(3) 親子のふれあいを通した心の醸成	ア 親子の行事開催
		イ 読み聞かせ活動の推進
		ウ 図書館との連携
② 地域社会・幼稚園・保育園・認定こども園・小中学校との連携 (こども政策課)	(1) 地域社会・関係機関と連携した幼児教育の推進	ア 園行事への招待と地域行事への参加
		イ 地域の方とのふれあい活動の推進
	(2) 幼稚園・保育園・認定こども園との連携	ア 菊川市幼児施設連絡会との連携
		イ 小笠地区乳幼児保健会への出席
		ウ インクルーシブ教育の推進
	(3) 小中学校との交流の推進	ア 保・幼・こ・小連絡会の開催
		イ 教育委員会学校訪問への参加
		ウ 小学校との交流

令和7年度 点検評価シート(重点施策)

基本方針1	生涯にわたる人格形成の基礎を培う教育・保育の推進					
重点施策①	幼児教育・保育の質の向上			担当課	こども政策課	
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
「お子さんは、楽しんで登園している」と回答する保護者の割合(園アンケート調査結果)	—	83.1%	91.8%	94.6%		85.6%
2. 成果指標の分析と課題						
・各園が一人ひとりの子どもに寄り添い保育を工夫したり、保護者との連携を大切に子どもの成長や日々の様子を丁寧に伝えてきたことが、アンケート結果90%以上につながったと思われる。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・今後も子どもの姿に寄り添った保育を実践できるようにしたり、子どもの育ちを保護者に伝えられる関係作りを大切にする。						

基本方針1	生涯にわたる人格形成の基礎を培う教育・保育の推進					
重点施策②	地域社会・幼稚園・保育園・認定こども園・小中学校との連携	担当課	こども政策課			
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
市内公私立園職員研修会(公開保育)の参加者数	26人	16人	29人	82人		70人
2. 成果指標の分析と課題						
・令和7年度から一部の私立園でも公開保育を始めたため、参加人数が増加し、目標値を上回ることができた。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・今後も公私園ともに公開保育を行い、市内園全体としての保育の質の向上につながるようにする。						

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	幼児教育・保育の質の向上	
施策名 (中分類)	子供の発達や特性を踏まえた計画的な教育の推進と、体験を通して興味・関心・意欲をふくらめる教育の推進【①-(1)】	担当課・係 こども政策課 幼保こども園係
施策の目的	家庭と地域と連携して、乳幼児期の教育の目標を達成するために必要な様々な体験が豊富に得られるような環境を構成し、乳幼児期にふさわしい生活が営めるように努める。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・市内公立園研修会、市内公私立園職員研修会を開催し、教育・保育の質の向上を図る。 ・各園において、各種園行事を実施し、親子関係や友達関係を深める。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・市内公立園研修会、市内公私立園職員研修会を開催し、保育の質の向上へつながった。 ・各園において各種行事を実施し、親子関係を深めた。また、一部の園では年長交流を行い友だち関係を広めることができた。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・市内公立園研修会、市内公私立園職員研修会を開催し、保育に対して学びを深めた。 ・各園において、各種行事を実施し、親子関係を深めることができた。公立園の2園交流会を実施し、友だち関係を広げることができた。	
今後の取組課題 又は改善点	・市内公私立園研修会は今後も継続し、公開保育研修ではお互いの学びが深まるように保育案の提出等について検討する。 ・各園の各種行事は今後も継続し親子関係を大切にできるようにする。年長児交流は可能な園で継続できるようにする。	

施策名 (大分類)	幼児教育・保育の質の向上	
施策名 (中分類)	保護者との連携【①-(2)】	担当課・係 こども政策課 幼保こども園係
施策の目的	親子のふれあい活動を取り入れて、子育ての楽しさを感じたり、保護者同士が悩みを話し合ったり、子育ての情報を共有・提供したりして、子育てやしつけについて学ぶ場を提供する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・各園の事業計画に従って、家庭教育学級による親子ふれあい活動や親同士の学習会、保護者の保育参加、保護者協力活動を実施する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・各園の事業計画に従い、家庭教育学級による親子ふれあい活動や親同士の学習会、保護者の保育参加、保護者協力活動を実施し、子育ての楽しさを感じたり、保護者同士の悩みを話し合ったりする場となった。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・家庭教育学級事業として、各園で親子ふれあい活動、保護者学習会を行ったり、園行事の一環で保育参加を行ったりした。親子の思い出づくりとなったり、子どもの成長を実感できる場となったりしていた。	
今後の取組課題 又は改善点	・今後も親子ふれあい活動や保護者学習会、保護者の保育参加等を継続する。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	幼児教育・保育の質の向上	
施策名 (中分類)	親子のふれあいを通した心の醸成 【①-(3)】	担当課・係 こども政策課 幼保こども園係
施策の目的	親子でふれあいながら活動することにより、絆を深め子どもの心の安定を図るとともに、絵本を用いた読み聞かせ活動を通して、絵本の楽しさを深め、自己肯定感をもてるようにする。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	- 各園の計画に従って、運動会、お楽しみ会等の親子の行事を開催し、親子の絆を深める。 - 親子の読み聞かせや図書館との連携により、子どもの情緒の安定を図るとともに、豊かな心を育み、想像力豊かな子どもを育てる。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	- 各園の計画に従い、親子で楽しめる行事を開催し、親子の絆を深めることができた。 - 読み聞かせの大切さを啓発したり図書館と連携したりしたことで、園内で絵本を読む園児が増えた。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	- 計画に従って、運動会、お楽しみ会等の親子の行事を開催し、親子の絆を深めることができた。 - 親子の読み聞かせや図書館との連携により、心が安定し、絵本の読み聞かせを静かに聞ける子が増えた。	
今後の取組課題 又は改善点	- 親子で楽しめる行事は今後も計画を立て開催する。 - 親子での読み聞かせの大切さは今後も啓発を行い、図書館とも連携しながら子どもの心が安定できるようにする。	

施策名 (大分類)	地域社会・私立幼稚園・保育園・認定こども園・小中学校との連携	
施策名 (中分類)	地域社会・関係機関と連携した幼児教育の推進 【②-(1)】	担当課・係 こども政策課 幼保こども園係
施策の目的	地域の行事に園児が参加したり、防災の連携をしたりして地域との関わりを大切にする。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	- 地域住民を園行事に招待するとともに、地区センター祭り等の地域行事へ参加することで地域の園に親しみをもってもらおう。 - 収穫体験等の地域の方とのふれあい活動を推進する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	- 園所在の地区センター祭りへの参加等を通し、地域の園に親しみをもってもらうことができた。 - 地域の畑等に招かれて収穫体験を行い、地域の方とのふれあい活動を行った。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	- 地区センター祭り等の地域行事へ参加することで、地域の園に親しみをもってもらうことができた。 - 収穫体験等を通し、地域の方とのふれあい活動を推進することができた。	
今後の取組課題 又は改善点	- 今後も地域の行事に参加し、園に親しみを感じてもらえるようにする。 - 収穫体験等を通じての地域の方とのふれあい活動も継続する。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	地域社会・私立幼稚園・保育園・認定こども園・小中学校との連携	
施策名 (中分類)	幼稚園・保育園・認定こども園との連携 【②-(2)】	担当課・係 こども政策課 幼保こども園係
施策の目的	公立園・私立幼稚園・民間保育所・認定こども園が幼児施設連絡会での研修会や園長会を通して互いの理解を図るとともに、職員の資質向上を図る。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・幼児施設連絡会が主催する園長会や各種研修会への参加促進や、市内園公開保育の依頼等をし、公立園や私立園の連携を図るとともに、保育の質の向上を目指し、市全体の幼児教育をより良いものにする。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・幼児施設連絡会主催の研修会を行い、公私園ともに保育の質の向上につながる学びの場となった。 ・公開保育を行う私立園が複数あり、公私園の連携を図ることもできた。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・幼児施設連絡会主催の園長会や研修会を行い、公私園の連携を図ることができた。また共通の研修を受けることで、お互いの情報交換ができ、保育の質の向上につながった。	
今後の取組課題 又は改善点	・公開保育を行うことで、公開する側、参観する側ともに保育の質の向上につながるように、保育案の提出なども検討する。	

施策名 (大分類)	地域社会・私立幼稚園・保育園・認定こども園・小中学校との連携	
施策名 (中分類)	小中学校との交流の推進 【②-(3)】	担当課・係 こども政策課 幼保こども園係
施策の目的	生涯の人間形成の基となる幼児期の教育の重要性を多くの人に理解してもらうため、幼稚園・保育園が互いに横の連携を取りながら、子どもの育ちを小学校、中学校へとつなげる。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・保・幼・こ・小連絡会の開催や園の公開保育へ小学校教諭が参加することにより、園から小学校の円滑な接続を図る。 ・教育委員会学校訪問へ参加し、学校現場の実態等について視察する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・園校連携研修会を2回開催し、園校の円滑な接続についての学びを深めることができた。 ・各園公開保育に市内校教員の参加も見られ、園の保育について知る機会となった。 ・教育委員会学校訪問に参加し、市内校の取り組みについて学ぶことができた。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・保・幼・こ・小連絡会の開催や園の公開保育へ小学校教諭が参加し、園の保育にふれることができた。 ・教育委員会学校訪問へ参加し、学校現場の実態等について学ぶことができた。	
今後の取組課題 又は改善点	・園校連携研修では、公開保育参観後の研究協議をととして園の保育について学びを深めたり、今後の連携のきっかけとなるように架け橋カリキュラムの作成についての研修を行いたい。	

基本理念	「豊かな学びで歩み続ける人づくり」	
「豊かな学びで歩み続ける人」とは	～自立した人、思いやりのある人、いつまでも学び続ける人～	
基本方針	2 「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進【学校教育】	
重点施策(大分類)	施策(中分類)	主要事業(事務・事業)
① 小中一貫教育「学びの庭」構想の推進 (学校教育課)	(1) 地域・学校間連携の推進及び学校間交流の促進	ア 学校運営協議会の開催
		イ 地域学校協働活動推進事業
		ウ 学校の未来を考える会の実施(今後の学校の在り方の検討)
		エ 保幼小中高の連携の推進
	(2) 豊かな学びを支える環境づくりの推進	ア 環境教育、食育、キャリア教育の推進
		イ 企業と連携した教育活動の推進
		ウ 未来の部活動在り方検討会の実施
② ICT環境等を生かした魅力ある授業づくり (学校教育課)	(1) 魅力ある授業づくりの推進	ア 学校訪問による授業改善支援
		イ 推進校を中心としたICTを活用した授業づくり研修会等の実施
		ウ 全国学力・学習状況調査の分析
		エ カリキュラム・マネジメントシートを活用した教科横断的な授業づくりの推進
	(2) GIGAスクール構想の推進	ア 校務の情報化の推進
		イ 菊川市情報教育モデルカリキュラムの活用
		ウ ICT推進委員会の開催
		エ ICT機器の整備・更新
③ 思いやりに満ちた学校づくり (学校教育課)	(1) 魅力ある学校づくり	ア 子どもの声調査を活用した教育活動の見直し
		イ 魅力ある学校づくり研修会の実施
	(2) 「心の教育」の推進	ア いじめ防止対策の推進(いじめ問題対策連絡協議会及びいじめ問題調査委員会の開催)
		イ 人権教育、福祉教育の実践
		ウ 考える道德の推進
	(3) 児童・生徒の心に寄り添う支援	ア 教育支援センターの運営
		イ こころの教室相談員の配置
④ 「一人ひとりが生きる教育」の推進 (学校教育課)	(1) 特別支援教育の推進	ア 就学支援委員会の開催
		イ 巡回相談及び教育相談の実施
		ウ 学級・学校支援員の配置
		エ 教職員研修の充実
	(2) 外国人児童生徒への教育支援	ア 外国人児童生徒就学支援
		イ 支援員の配置
		ウ 外国人担当者研修会の開催
	(3) 安全教育の充実	ア 自分の命は自分で守る学校安全
		イ 通学路点検の実施
		ウ 危機管理マニュアルの見直し
⑤ こころざしを持った頼もしい教職員の育成 (学校教育課)	(1) 教職員の育成指導	ア 経験や課題に応じた研修会の実施
		イ 学校訪問による教職員指導
	(2) 教職員の人事及び評価	ア 教職員人事評価の実施
		イ 「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」の推進
	(3) 円滑な学校運営の推進	ア 学校評価の活用
		イ 教職員の働き方改革の推進
		ウ 危機管理意識の醸成

令和7年度 点検評価シート(重点施策)

基本方針2	「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進					
重点施策①	小中一貫教育「学びの庭」構想の推進			担当課	学校教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
学校間連携事業の回数	23回	38回	44回	70回		30回
地域連携による体験事業の回数	71回	74回	108回	223回		90回
2. 成果指標の分析と課題						
・コミュニティ・スクールの開始に伴い、各学舎における地域学校協働活動が増加している。 ・令和7年度は、河城小学校及び六郷小学校に地域コーディネーターを試験的に配置し、さらなる推進を図った。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・令和8年度の地域コーディネーターの本格配置に向けて、制度の構築を進める。						

基本方針2	「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進					
重点施策②	ICT環境等を生かした魅力ある授業づくり			担当課	学校教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
「授業がよくわかる」の評価項目で「当てはまる」(強肯定)と回答する児童生徒の割合(学校アンケート調査結果)	51.0%	49.4%	46.9%	45.2%		60.0%
「授業でタブレットを使って自分の考えを表現したり、友達と意見を交流をしたりした。」の評価項目で「当てはまる」(強肯定)と回答する児童生徒の割合(学校アンケート調査結果)	51.7%	31.5%	22.0%	31.4%		60.0%
2. 成果指標の分析と課題						
・「授業がよくわかる」の回答については少し減少しているが、5割近い児童が「強肯定」を選択している。市の指定校として河城小学校が研究を推進している。青山学院大学の益川教授の継続的な助言により、教師の授業づくりへの意識が少しずつ変わりつつある。タブレットの使用については、ICTを取り入れた授業改善が進み、活用する場面が増えてきたことが考えられる。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・令和8年度から小学校の全学年で一人一台端末がChromebookに変わった。また、児童生徒の生成AIの利用についても可能となった。一人一台端末を効果的に活用する授業について今後さらに推進していく。						

令和7年度 点検評価シート(重点施策)

基本方針2	「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進					
重点施策③	思いやりに満ちた学校づくり			担当課	学校教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
「学校が楽しい」の評価項目で「当てはまる」(強肯定)と回答する児童生徒の割合(学校アンケート調査結果)【小学校】	67.2%	65.9%	66.4%	67.6%		70.0%
「学校が楽しい」の評価項目で「当てはまる」(強肯定)と回答する児童生徒の割合(学校アンケート調査結果)【中学校】	61.0%	59.4%	57.4%	58.2%		63.0%
2. 成果指標の分析と課題						
・多くの学校で高い数値を示しており、特に8割前後の高い肯定感を持つ学校も複数みられる。 ・学校間で多少差がみられる(56%～84%)が、小学校では年々数値が上昇している。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・保護者のアンケート結果と比較すると、保護者が感じる「子どもが学校を楽しんでいる割合」は、小学校58.6%、中学校51.7%と、子ども本人の実感よりも低い傾向にある。学校での様子を丁寧に家庭に伝えることで、学校・家庭・地域の連携を深めることに力を入れたい。						

基本方針2	「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進					
重点施策④	「一人ひとりが生きる教育」の推進			担当課	学校教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
「みんなで何かをするのは楽しい」の評価項目で肯定的な回答をする児童生徒の割合(学校アンケート調査結果)【小学校】	96.7%	95.7%	97.2%	96.8%		97.0%
「みんなで何かをするのは楽しい」の評価項目で肯定的な回答をする児童生徒の割合(学校アンケート調査結果)【中学校】	95.7%	95.7%	95.8%	96.7%		97.0%
「学校が楽しい」の評価項目で肯定的な回答をする外国人児童生徒の割合(学校アンケート調査結果)【小学校】	93.0%	95.1%	96.1%	96.7%		97.0%
「学校が楽しい」の評価項目で肯定的な回答をする外国人児童生徒の割合(学校アンケート調査結果)【中学校】	96.0%	94.6%	89.8%	94.2%		97.0%
2. 成果指標の分析と課題						
・肯定評価96%～97%台ということは、ほとんどの児童生徒が「概ね楽しい」と感じていることを示す。一方で、強肯定のみの数値は小学校80.1%、中学校71.0%であり、肯定評価のうち約15～25%は「強肯定ではない層」であることを示している。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・学校行事や児童会・生徒会活動において、子どもの主体性を生かした活動場面を増やす。 ・教師や友達から認められたり賞賛されたりする機会を充実させることで、集団に所属する満足感や自己有用感の向上を図る。						

令和7年度 点検評価シート(重点施策)

基本方針2	「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進					
重点施策⑤	こころざしを持った頼もしい教職員の育成		担当課	学校教育課		
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
「学校に、信頼することができる先生がいる。」の評価項目で肯定的な回答をする児童生徒の割合(学校アンケート調査結果) 【小学校】	94.8%	93.0%	94.2%	94.2%		95.0%
「学校に、信頼することができる先生がいる。」の評価項目で肯定的な回答をする児童生徒の割合(学校アンケート調査結果) 【中学校】	88.9%	88.0%	88.5%	90.6%		90.0%
菊川市主催の希望研修「学び続ける教員研修会」への参加教職員の割合	61.0%	64.5%	61.0%	71.0%		65.0%
2. 成果指標の分析と課題						
・成果指標は極めて高い水準にあり、これまで保護者や地域の声に丁寧に耳を傾けながら取組を進めてきた成果であると考えられる。 ・小学校から中学校へ進学する段階で肯定的な回答がやや低下する傾向については、思春期における心理的な距離感の変化によるものも一因であると考えられる。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・全校で子ども一人ひとりの小さな変化を丁寧に捉え、日常的な声掛けを積み重ねることで、「自分を理解してくれる大人がいる」という安心感を高めていく。 ・教職員が情報を共有しながら、チームで対応できる組織づくりを引き続き大切にしていける。						

基本方針2	「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進					
重点施策⑦	安全で安心して教育が受けられる環境づくり			担当課	学校教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
小・中学校における理科、算数及び数学備品整備率(整備済額／国庫補助金基準額)	65.65%	66.76%	66.56%	66.92%		68.00%
2. 成果指標の分析と課題						
・毎年度、補助金を利用し購入しているため、基準値を上回っている。 ・令和7年度においては、備品台帳のシステム化を行ったことにより、備品管理の精度が向上するとともに、整備率についてもより正確に把握することができるようになった。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・引き続き、補助金を利用して理科、算数及び数学備品の整備を進める。						

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	小中一貫教育「学びの庭」構想の推進	
施策名 (中分類)	地域・学校間連携の推進及び学校間交流の促進【①-(1)】	担当課・係 学校教育課 教育改革推進係
施策の目的	小・中学校の「たての接続」と学校・地域社会の「よこの連携」、「地域の財を生かした教育」を基本理念とした「学びの庭」構想を推進する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・学舎学校運営協議会を学舎ごと6回開催し、学校と地域が対等な立場として協働する「学校を核とした地域づくり」を進めるため、地域と連携した活動を1回以上実践する。 ・本市における児童生徒数の推計を踏まえ、子どもたちに必要な教育を実現するために必要な環境及び内容を検討するための、学校の未来を考える会を5回開催し、地域住民説明用資料を作成する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・学校運営協議会を開催し、授業参観やアンケートを基に委員評価を得て、小中一貫教育「学びの庭」構想を推進した。各学舎では図書ボランティア整備、草刈・学校見学会、ながら見守り等を実施した。 ・学校の未来を考える会を5回開催し、課題共有と意見集約を行い、地域向け説明資料を作成した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・各学舎において、年3回学校運営協議会を開催し、授業参観やアンケート結果をもとに、課題の協議や学舎の評価、各学校の評価をした。 ・学校の未来を考える会を5回開催し、児童数の減少に対応する教育の在り方について、現状の課題を共有しつつ、これからの菊川市の教育を考える意見をいただくことができた。	
今後の取組課題 又は改善点	・令和8年度の地域コーディネーターの本格配置に向けて、制度の構築を進める。 ・学校の未来を考える会の中で、今後の人口減少によるだけでなく、施設の耐用年数も加味しながら教育の在り方などについて検討していく。	

施策名 (大分類)	小中一貫教育「学びの庭」構想の推進	
施策名 (中分類)	豊かな学びを支える環境づくりの推進【①-(2)】	担当課・係 学校教育課 教育改革推進係
施策の目的	文化的体験や、菊川市の地域の力を生かし、心身共に健全な児童・生徒を育成する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・未来の部活動在り方検討会を7回開催し、地域の実情を把握するとともに、本市の部活動の方向性を検討し、地域展開に向けた情報発信を行う。 ・部活動と地域クラブの連携のため、3種目において専門部会を計8回開催する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・未来の部活動在り方検討会を7回開催し、休日の地域展開に向けて協議した。認定地域クラブ制度や合同部活動について、広報菊川10月号にて大々的に情報発信を行った。 ・陸上競技、剣道、卓球の専門部会を設置し、計8回開催した。陸上競技では、アプロス菊川による休日活動を実施し、検証を行った。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・未来の部活動在り方検討会を7回開催し、令和10年8月末にすべての種目の休日の地域展開を完了する目標を決定し、広報菊川や新入生説明会にて情報発信を行った。 ・陸上競技、剣道、卓球の専門部会を設置し、陸上競技では、アプロス菊川による休日活動の試行を実施し、検証を行った。	
今後の取組課題 又は改善点	・合同部活動を母体とした地域クラブ設立に向けて実務者会議を設定する。 ・連絡手段や移動手段などの課題に対する方策を検討する。 ・困窮家庭や認定地域クラブを支援するための財源確保のため、企業協賛を募集する。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	ICT環境を生かした魅力ある授業づくり	
施策名 (中分類)	魅力ある授業づくりの推進【②-(1)】	担当課・係 学校教育課 学校指導係
施策の目的	一人ひとりに「確かな学力」をつけるため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを推進する。情報教育機器の効果的な活用について研究を進め、楽しく、分かる授業を目指す。また、全国学力・学習状況調査の分析を基に、求められている学力や菊川市の子供の課題を明確にして授業改善に取り組む。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・市内12校を指導主事が学校訪問し、授業改善支援を行う。 ・ICTを活用した授業づくり研修会を実施し、授業改善を図る。 ・全国学力・学習状況調査の分析及び学力向上委員会を実施し、学力の定着を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・市内12校を学校訪問(静西教育事務所の指導訪問・学校等支援研修の同行訪問を含む)で、実態をつかみ指導助言を行い、各校の研修テーマに沿った校内研修の推進のサポートができた。 ・Google社の講師を招き、Chromebook研修会等を実施したことで、教職員や児童生徒の活用が促進された。 ・全国学力・学習状況調査の分析を行い、学力向上対策委員会を開催し、本市の学力の現状の把握をして、成果や課題を各校の研修につなげることができた。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・市内12校を学校訪問(静西教育事務所の指導訪問・学校等支援研修の同行訪問を含む)で、実態をつかみ指導助言を行い、各校の研修テーマに沿った校内研修の推進のサポートができた。 ・ICTを活用した授業づくり研修会を実施したことで、教職員や児童生徒の活用が促進された。 ・全国学力・学習状況調査の分析を行い、学力向上対策委員会を開催し、本市の学力の現状の把握をして、成果や課題を各校の研修につなげることができた。	
今後の取組課題 又は改善点	・ICTの活用については、学校差や職員差が見られるので、教職員一人ひとりが菊川市のICT環境を生かして授業づくりが推進されるよう、働きかけをしていく。	

施策名 (大分類)	ICT環境を生かした魅力ある授業づくり	
施策名 (中分類)	GIGAスクール構想の推進【②-(2)】	担当課・係 学校教育課 ICT推進係
施策の目的	情報教育機器を効果的に活用し、一人ひとりに「確かな学力」をつけるため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを推進する。また、校務支援システム等を活用して、教職員の働き方改革を推進する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・一人一台端末の更新によりChromebookが配置されていくため、Google社の講師を派遣したChromebook研修会等を開催し、GoogleWorkspaceの活用を促進していく。 ・ICT推進委員会を4回実施し、本市におけるICT活用の方向性を共有する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・小学校全校の1人1台端末をChromebookに更新し、全校でChromebook研修会を実施し、活用の促進に寄与した。 ・ICT推進委員会を4回実施し、ICT活用の方向性の共有や、授業での活用研修を実施した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・市内小学校6校(六郷小、内田小、横地小、加茂小、堀之内小、河城小)における無線LANの機器更新及び増設を行い、校内ネットワーク環境を改善することができた。 ・ICT推進委員会を年5回実施したことで、市としてのICT活用の方向性の共有や、授業における有効的なICT機器の活用方法を検証することができた。	
今後の取組課題 又は改善点	・端末を週3回以上活用する学校が現状より増加するための研修等の取り組みを行う必要がある。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	思いやりに満ちた学校づくり	
施策名 (中分類)	魅力ある学校づくり【③-(1)】	担当課・係 学校教育課 学校指導係
施策の目的	思いやりに満ちた学校づくりを進めるために、人権教育や福祉教育の実践を進め、いじめのない学校経営を推進する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・魅力ある学校づくり研修会を3回実施するとともに、ダッシュボードを活用した子どもの声調査を実施し、明日も登校したい学校づくりに努める。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・魅力ある学校づくり研修会を3回実施し、各校において子どもの声を反映させた明日も登校したい学校づくりに努めた。小笠北こども園を視察し、子ども理解や発達支持的生徒指導について、共通理解を図ったことが小中学校ともに新規不登校数の減少につながっていると考える。 A A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・魅力ある学校づくり研修会を年3回実施した。不登校対策において未然防止と初期対応が重要であることを各学校担当者と再確認した。各小中学校の取組を共有するとともに、学校職員への理念の浸透方法や生徒指導担当としての役割について確認した。	
今後の取組課題 又は改善点	・園小中で互いの子ども観や支援方法について共通理解を深めるために、異校種の視察を行う。 ・不登校が継続している児童生徒への支援方法や居場所づくりを検討する。	

施策名 (大分類)	思いやりに満ちた学校づくり	
施策名 (中分類)	「心の教育」の推進【③-(2)】	担当課・係
		学校教育課 学校指導係
施策の目的	近年、全国的に発生件数が増加しているいじめの重大事案に対し、いじめ防止対策推進法に基づき、いじめ防止対策を推進する。また、人権教育、福祉教育の実践や考える道徳の推進により、「心の教育」を推進する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題調査委員会を各2回実施し、いじめの重大事案に迅速かつ組織的に対応できるよう、いじめの防止等に関係する機関及び団体との連絡調整、情報交換を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題調査委員会を各2回実施した。市内で実際に起こったいじめ事案について、対応方法や未然防止の方法など、専門家からの意見をもとに協議した。協議内容については、生徒指導連絡協議会等で共有し、各校の生徒指導対応へ生かした。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題調査委員会を各2回ずつ実施した。それぞれの会で菊川市の不登校の現状を周知するとともに、条例の制定内容を共通理解した。教職員へのアンケートの実施や菊川市しあわせ宣言など、いじめ防止に向けた取組について意見をいただいた。	
今後の取組課題 又は改善点	・いじめ認知について、学校によって差があるため、積極的な認知を進めるよう共通理解を図る必要がある。 ・いじめ問題調査委員会では、実際に重大事態が発生した際に、どのように調査を行うのか、具体的な動きを確認する。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	思いやりに満ちた学校づくり		
施策名 (中分類)	児童・生徒の心に寄り添う支援【③-(3)】	担当課・係	
		学校教育課 学校指導係	
施策の目的	一人ひとりに寄り添った支援を推進する。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・教育支援センター「このゆびと～まれ」の運営を行うとともに、心の教室相談員を市内3中学校に配置することにより、学校生活の悩みや登校に不安がある子どもの支援を行う。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・教育支援センターへの入級手続きを設定し、学校と家庭、教育支援センターで連携して支援方法を検討した。1日の平均来室人数は、5人程度であった。 ・子育てに悩む保護者を対象とした「喫茶このゆび」を4回開催し、保護者支援の場を設定した。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・教育支援センターにおいては、1日の平均来室人数は8人程度であったが、多いときには、14人が利用する日もあった。また、15件の教育相談を受け、児童・生徒・保護者に寄り添った支援を行った。市内3中学校の心の教室相談員と年間2回のオンライン研修を行い、各校の課題や運営方法について情報共有を行った。		
今後の取組課題 又は改善点	・3中学校に設置している校内教育支援センター「ステップルーム」と連携し、各校の課題や支援方法について情報共有を図りたい。		

施策名 (大分類)	「一人ひとりが生きる教育」の推進	
施策名 (中分類)	特別支援教育の推進【④-(1)】	担当課・係 学校教育課 学校指導係
施策の目的	育児や発育に対して支援の必要な全てのの子供のために、個を大切にした教育をさらに推進し、心の教育を充実させて、「一人ひとりが生きる教育」を進めていく。各園・学校における体制整備及び関係部局や機関の連携協力を図り、教育・医療・保健・福祉・労働との連携を強化し、乳幼児期から就労に至るまでの一貫した支援体制を整備する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・就学支援委員会を6回開催し、障害を有する児童生徒の就学に関する審議を行う。 ・巡回相談員による巡回相談の実施、学級・学校支援員の配置、特別支援教育コーディネーター研修会等の実施により、特別な支援を必要とする児童生徒の指導及び支援の充実を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・就学支援委員会を6回開催し、就学に関する審議を行った。 ・小中学校全12校に2回ずつ相談員による巡回相談を行った。 ・特別支援教育コーディネーター研修会を2回開催し、特別な支援を必要とする児童生徒支援についての講義やグループワークを行った。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・就学支援委員会を5回開催し、就学に関する審議を行った。また、小中学校全12校に2回ずつ相談員による巡回相談を行った。特別支援教育コーディネーター研修会は2回開催し、特別な支援を必要とする児童生徒支援についての講義やグループワークを行った。	
今後の取組課題 又は改善点	・就学支援委員会の審議数が増えており、回数や方法について検討する必要がある。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	「一人ひとりが生きる教育」の推進	
施策名 (中分類)	外国人児童生徒への教育支援【④-(2)】	担当課・係 学校教育課 学校指導係
施策の目的	外国人児童生徒の在籍する学校に支援員を配置し、日本語指導とともに学習・生活支援を行い、校内での学習や学校生活が円滑に進むようにする。「学校が楽しい」と答える児童生徒を90%以上とする。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・3市で「虹の架け橋」の運営をNPO法人へ委託し、外国人児童生徒への日本語初期指導を実施する。 ・外国人支援員を配置し、日本語指導を必要とする外国人児童生徒に対する日常生活及び学習指導や保護者への通訳を行う。 ・外国人担当者研修会を実施し、指導に当たる教職員の資質向上を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・「虹の架け橋教室」で日本語初期指導を実施し、小笠地区3市の小中学校に57人が編入し、うち菊川市の小中学校には28人の児童生徒が編入した。 ・各校の外国人児童生徒担当や支援員等を対象とした外国人児童生徒担当者研修会を開催し、講義やグループワークを行った。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・「虹の架け橋教室」で日本語初期指導を実施し、小笠地区3市の小中学校に53人が編入し、うち菊川市の小中学校には26人の児童生徒が編入した。また、各校の外国人児童生徒担当や支援員等を対象とした外国人児童生徒担当者研修会を開催し、講義やグループワークを行った。	
今後の取組課題 又は改善点	・外国人児童生徒の編入が増加する中、児童生徒への支援体制や教職員・支援員等への研修をさらに充実させるとともに、外国人支援員の配置も検討する必要がある。	

施策名 (大分類)	「一人ひとりが生きる教育」の推進		
施策名 (中分類)	安全教育の充実【④-(3)】	担当課・係	
		学校教育課 学校指導係・教育改革推進係	
施策の目的	安心して学校に通える環境づくりを進めるために、学校の危機管理体制の向上を図り、児童生徒の安全意識を高める。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・菊川警察署による防犯教室、県くらし安全課主催の子どもの体験型防犯講座、通学路安全点検及び通学路安全対策検討会を実施し、児童生徒の安全意識の向上及び安全確保を図る。 ・水難事故を防ぐために、着衣泳の指導を実施する。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・菊川警察署による防犯教室や県くらし安全課主催の子どもの体験型防犯講座、通学路安全点検及び通学路安全対策検討会を計画どおり実施した。関係機関と連携した取組により、児童生徒が防犯行動を具体的に学ぶ機会が確保され、安全に対する意識の向上が見られた。また、通学路の危険箇所の把握と改善に向けた検討を進めることができ、安全確保体制の充実につながった。 ・全小中学校で、日本赤十字社の水上安全法講習の活用等により、着衣泳の指導を実施した。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・学校安全総合支援事業を活用し、11月に菊川東中学校及び岳洋中学校において釜石東中学校元副校長の村上洋子氏による防災教育講演会を開催し、中学生の防災意識の向上を図った。また常葉大学木宮教授を招いて、学校防災マニュアルにおける項目を統一することができた。 ・全小中学校において、通学路安全点検を行い、それを基に通学路安全対策検討委員会を開催し、教育委員会と警察、道路管理者等で市内全体の安全対策を検討し、対策を実施した。		
今後の取組課題 又は改善点	・毎年通学路点検を実施するが、対策の進捗状況を確認する必要があるため、合同点検の数か月後に関係機関で集まり、学校へ再周知する。		

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	こころざしを持った頼もしい教職員の育成	
施策名 (中分類)	教職員の育成指導【⑤-(1)】	担当課・係 学校教育課 学校指導係
施策の目的	児童生徒、保護者や地域から信頼される教職員を育成するために、各種研修会を開催するとともに、学校訪問による教職員指導を実施する。(「学校に信頼することのできる先生がいる」と答える児童生徒の割合、小学校91%中学校85%以上を目指す。)	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・学び続ける教員研修を実施し、教職員の視野を広めたり、総合的な資質を高めたりする。 ・初任者研等の経年研修や、教頭、研修主任、教務主任等の役職研修を実施し、信頼される頼もしい教員の育成を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・各種研修会への参加教職員数が令和6年度実績を上回り、資質向上に向けた組織的な意欲が高まっている。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・令和6年度の参加者は令和5年度を上回った。開催枠を一つ減らしたが、参加者の希望をできる限り尊重したことにより、研修への参加に主体性を持たせることができた。	
今後の取組課題 又は改善点	・市の教育方針を反映した研修内容をさらに充実させ、市のねらいに即した実践的な指導力を持つ教員の育成を推進する。 ・ICT活用能力の向上に留まらず、多様な教育課題に対応できる幅広い視野を備えた教職員の育成に努めていきたい。	

施策名 (大分類)	こころざしを持った頼もしい教職員の育成		
施策名 (中分類)	教職員の人事及び評価【⑤-(2)】	担当課・係	
		学校教育課 学校指導係	
施策の目的	新たな人事評価により、教職員の前向きな取り組みを促し、資質能力の向上や組織の活性化につなげる。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・教職員人事評価における自己目標シート及び職務評価シートの活用並びに管理職による面談を実施し、教職員の資質や意欲の向上及び職場の活性化を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・教職員一人ひとりが、自身の力量や今後のキャリアを踏まえた目標を設定し、その達成に向けて主体的に取り組む姿が見られた。 ・教職員育成指標を活用した振り返りを通して、自身の強みや課題を意識しながら資質・能力の向上を図ることができ、人事評価が自己の力を伸ばす機会として機能している。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・年度始めに管理職による面談を実施し、年度末にも二度目の校長面談を実施することで、適正な評価を行うことができた。職員は教職員育成指標を活用し、自己のキャリアを見据えて、適切な目標設定と自己評価ができた。		
今後の取組課題 又は改善点	・教職員育成指標をより効果的に活用しながら、自身のキャリアステージを意識して日々の実践を振り返り、主体的に資質・能力の向上を図ろうとする意識を一層高めていく必要がある。		

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	こころざしを持った頼もしい教職員の育成	
施策名 (中分類)	円滑な学校運営の推進【⑤-(3)】	担当課・係 学校教育課 学校指導係
施策の目的	学校評価を活用するとともに、地域との連携を密にすることにより、円滑な学校運営を推進し、地域から信頼される学校経営を実施する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・各校で学校評価を実施し、学校運営改善に活かすとともに、評価結果を学校だよりやホームページ等により公開する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・年2回の学校評価を実施し、その結果を学校だよりやホームページ等を通して保護者や地域へ周知するとともに、学校運営の改善に活かすことができた。 ・評価結果を教育課程の見直しや次年度の取組へ反映させることで、学校の実態に即した教育活動の充実につなげることができた	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・全小中学校において各学校の経営方針や重点的な活動について、学校職員・児童生徒・保護者の3者での学校評価を年2回行った。評価結果については、学校だよりとして保護者・地域に発信するとともに全校ホームページで公開した。	
今後の取組課題 又は改善点	・肯定的な評価が少しずつ増加しており、学校の取組が一定の成果につながっていることが伺える。今後も少数の意見にも丁寧に耳を傾けるとともに、教職員の働き方にも配慮しながら、多様化する保護者のニーズを大切にした学校運営を進めていく必要がある。	

基本理念	「豊かな学びで歩み続ける人づくり」	
「豊かな学びで歩み続ける人」とは	～自立した人、思いやりのある人、いつまでも学び続ける人～	
基本方針	2 「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進【学校教育】	
重点施策(大分類)	施策(中分類)	主要事業(事務・事業)
⑥ 学校施設の適正な維持管理・耐震化・長寿命化 (教育総務課)	(1) 学校施設の適正な維持管理	ア 法定点検の実施 イ 施設に関する保守業務委託の実施
	(2) 学校施設整備	ア 国庫補助事業の実施(耐震化、屋内運動場におけるLED照明への取替)
		イ 県費補助事業の実施(学校における飛散防止フィルムの張替)
		ウ 市単独事業の実施(学校要望事業等の実施)
⑦ 安全で安心して教育が受けられる環境づくり (教育総務課)	(1) 教室環境の整備	ア 児童生徒用の机椅子の更新 イ 教材備品の整備
	(2) 家庭への支援	ア 就学援助事業の実施 イ 特別支援教育就学奨励事業の実施
⑧ 安全でおいしい給食の安定的な提供 (教育総務課)	(1) 安心・安全なおいしい給食作りの実施	ア 給食献立作り及び使用食材の発注 イ 食物アレルギーへの対応 ウ 民間委託による安定した調理業務の実施
	(2) 食育及び地産地消の推進	ア 栄養教諭等による食育指導の実施 イ ふるさと給食週間等の実施による地産地消の推進
	(3) 安定した給食業務の実施	ア 給食食数管理及び給食会計処理の実施 イ 給食センター施設の維持管理及び機器等更新の実施

令和7年度 点検評価シート(重点施策)

基本方針2	「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進					
重点施策⑥	学校施設の適正な維持管理・耐震化・長寿命化			担当課	教育総務課	
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
学校施設の耐震化率	96.2%	98.1%	98.1%	98.1%		100.0%
屋内運動場におけるLED照明設置率	16.7%	33.4%	58.3%	100.0%		100.0%
2. 成果指標の分析と課題						
・学校施設の耐震化については菊川市が所有する公共建築物の耐震性能リスト(教育委員会)に掲載している53施設のうち、1施設が耐震性がやや劣る建物を有している旨を記載しているが、現状使用していないため、実質的には完了している。 ・屋内運動場におけるLED照明設置についても、R7年度に残りの5校に実施したことで、計画的な整備が完了した。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・学校施設の耐震化については、対象の1棟の建物取り壊し等について検討していく。 ・LED化についてはR6までに内田、六郷、河城、菊川東中、横地、岳洋中、菊川西中で整備済みで、R7に残り5校に設置したことで目標達成した。今後は校舎の長寿命化について検討を進める必要がある。						

基本方針2	「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進					
重点施策⑧	安全でおいしい給食の安定的な提供			担当課	教育総務課	
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
学校給食の残食率	4.73%	5.72%	6.46%	7.65%		4.00%
学校給食における地場産物の使用率	43.81%	41.29%	39.99%	36.61%		46.00%
2. 成果指標の分析と課題						
・残食率は黙食・おかわり制限といった習慣、給食を無理に食べさせない学校指導方針、カロリーへの懸念、食の嗜好の偏りが影響し、増加傾向にある。 ・地産地消率は近年の物価高騰の影響を受け、食材料費が高騰しているため、産地を問わない食材選定をせざるを得ない状況が続き、減少傾向にある。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・残食率の増加を抑制するため、食べやすいように工夫した献立作りを実施するとともに、学校や家庭と連携しながら食べ残しを減らせるよう努めていく。 ・地産地消率の減少を抑制するため、ふるさと給食週間に地元産の食材を積極的に活用し、地場産使用率を高めていく。						

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	学校施設の適正な維持管理・耐震化・長寿命化		
施策名 (中分類)	学校施設の適正な維持管理 【⑥-(1)】	担当課・係	
		教育総務課 施設係	
施策の目的	小・中学校の教育活動が支障なく行われるよう、学校教育環境の計画的な整備を実施する。また、学校環境を良好な状態に保つため、施設や設備の適切な維持管理を実施する。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・小中学校の施設及び設備の適切な維持管理、法定点検、改修を実施し、施設及び設備の長寿命化及び安全で快適な教育環境の確保を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・建物の定期点検、エレベーター及びダムウェーダーの点検等に加え、施設の破損や劣化に対する簡易的な改修を行うことで、安全で快適な教育環境の確保した。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・建物の定期点検、エレベーター及びダムウェーダーの点検等に加え、施設の破損や劣化に対する簡易的な改修を行うことで、安全で快適な教育環境の確保した。		
今後の取組課題 又は改善点	・法定点検や営繕により、学校運営上の問題は無いが、設置年数の観点から経年劣化等による不具合が発生することを想定した対策も必要となる。		

施策名 (大分類)	学校施設の適正な維持管理・耐震化・長寿命化	
施策名 (中分類)	学校施設整備 【⑥－(2)】	担当課・係
		教育総務課 施設係
施策の目的	耐震力がやや劣る校舎の耐震補強に併せ、トイレの洋式化やLED照明への改修を実施し、良好な教育環境の確保に努める。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・国庫補助を活用し、小笠東、小笠南、小笠北、加茂、堀之内小学校における屋内運動場の照明取替工事(LED化)を実施する。 ・県費補助を活用し、小笠東、堀之内小学校、菊川東中学校の経年劣化したガラス飛散フィルムの張替工事を実施する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・国庫補助を活用し、小笠東、小笠南、小笠北、加茂、堀之内小学校における屋内運動場の照明取替工事(LED化)及びトイレの洋式化工事を実施したことで、教育環境の改善が図られた。 ・小笠東、堀之内小学校、菊川東中学校において、県費補助を活用し経年劣化したガラス飛散防止フィルムの張替えを実施し、施設・設備の健全化が図られた。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・国庫補助を活用し、横地小学校、岳洋中学校及び菊川西中学校における屋内運動場の照明取替工事(LED化)及びトイレの洋式化工事を実施したことで、教育環境の改善が図られた。 ・小笠北小学校、河城小学校及び岳洋中学校において、県費補助を活用し経年劣化したガラス飛散防止フィルムの張替えを実施し、施設・設備の健全化が図られた。	
今後の取組課題 又は改善点	・使用頻度の高い特別教室及び体育館への空調設備設置や校舎等のLED化、トイレの洋式化についても計画的に進めていく必要があるため、活用可能な財源を確保するための情報収集に努める必要がある。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	安全で安心して教育が受けられる環境づくり		
施策名 (中分類)	教室環境の整備 【⑦－(1)】	担当課・係	
		教育総務課 施設係・学校教育課 学校政策係	
施策の目的	児童生徒が健やかに伸びていく学校環境の充実に向け、教育課程に基づいた授業等に 必要な教材備品等を効率的に購入する。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・児童生徒用の机及び椅子、学校要望による教材備品等の整備を行うことで、教育環境を 良好に保ち、学校教育の円滑化を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・児童生徒用の机や椅子について各学校に必要な数を集計、購入及び納入し、また各学校におい て必要となる教材備品を整備したことで、教育環境を良好に保つことができた。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・児童生徒用の机や椅子について各学校に必要な数を集計、購入及び納入し、また各学校におい て必要となる教材備品を整備したことで、教育環境を良好に保つことができた。		
今後の取組課題 又は改善点	・学校によって児童生徒数の増減にばらつきがあるため、机や椅子の納入数について臨 機応変に対応する必要がある。		

施策名 (大分類)	安全で安心して教育が受けられる環境づくり	
施策名 (中分類)	家庭への支援 【⑦-(2)】	担当課・係
		教育総務課 総務係
施策の目的	学校教育の機会均等の精神に基づき、経済的理由等により就学が困難な家庭に対し、学用品費や通学用品費、学校給食費などを援助し、保護者の経済的な負担軽減及び円滑な就学を図る。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対し、就学援助費を支給することで、保護者の経済的な負担軽減及び円滑な就学を図る。 ・特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費を支給することで、保護者の経済的な負担軽減及び特別支援教育の普及奨励を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・就学援助費の支給額は前年度実績と比較して1,836千円の増(R6:23,098千円、R7:24,934千円)、支給対象者は17名の増(R6:274名、R7:291名)となり、保護者の経済的負担の軽減及び円滑な就学を図ることができた。 ・特別支援教育就学奨励費の支給額では前年度実績と比較して385千円の増(R6:5,766千円、R7:6,151千円)、支給対象者は11名の増(R6:149名、R7:160名)となり、保護者の経済的負担の軽減及び特別支援教育の普及奨励を図ることができた。	
	A	A:十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B:一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C:十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・就学援助費の支給額は前年度実績と比較して2,822千円の増(R5:20,276千円、R6:23,098千円)、支給対象者は2名の増(R5:272名、R6:274名)となり、保護者の経済的負担の軽減及び円滑な就学を図ることができた。 ・特別支援教育就学奨励費の支給額では前年度実績と比較して78千円の増(R5:5,688千円、R6:5,766千円)、支給対象者は2名の増(R5:147名、R6:149名)となり、保護者の経済的負担の軽減及び特別支援教育の普及奨励を図ることができた。	
今後の取組課題 又は改善点	・市ホームページや就学時健康診断の案内通知への資料同封、各小中学校におけるPTA総会などでの資料配布等により、引き続き制度の周知に努める。 ・国の標準仕様書に基づく「就学支援システム」を令和8年度から使用していく。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	安全でおいしい給食の安定的な提供	
施策名 (中分類)	安心・安全なおいしい給食作りの実施【⑧-(1)】	担当課・係 教育総務課 給食センター係
施策の目的	学校給食における衛生管理体制を徹底し、児童生徒に安心安全なおいしい給食を提供する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・安全安心で栄養バランスの整ったおいしい給食が提供できるように、民間委託による給食調理及び配送業務を行い、給食残食率を4.0%以下とする。 ・食物アレルギーを持つ児童生徒の給食について、栄養担当職員及び委託先の栄養士と情報を共有し、適正な除去食を提供する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・安全安心で栄養バランスの整った給食提供はできたが、給食残食率7.65%となり、目標の4.0%以下を達成することができなかった。 ・食物アレルギー対応マニュアルに基づき、適正な除去食を提供することができた。	
	C	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・安全安心で栄養バランスの整った給食提供はできたが、給食残食率6.46%となり、目標の4.0%以下を達成することができなかった。 ・食物アレルギー対応マニュアルに基づき、適正な除去食を提供することができた。	
今後の取組課題 又は改善点	・残食率の増加を抑制するため、食べやすいように工夫した献立作りを実施するとともに、学校や家庭と連携しながら食べ残しを減らせるよう努めていく。 ・地産地消率の減少を抑制するため、ふるさと給食週間に地元産の食材を積極的に活用し、地場産使用率を高めていく。	

施策名 (大分類)	安全でおいしい給食の安定的な提供	
施策名 (中分類)	食育及び地産地消の推進 【⑧-(2)】	担当課・係 教育総務課 給食センター係
施策の目的	学校給食を通じて成長期にある児童生徒が、望ましい食生活の形成や好ましい人間関係の育成が図られることを目的に、食育推進事業を進めていく。また、安心安全で新鮮な食材となる地場産品の給食への使用拡大を図り、食育推進に繋げていく。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・栄養教諭による食育に関する指導を実施し、児童生徒が「食に関する知識」、「食を選択する力」、「望ましい食習慣」を身に付けられるように努める。 ・「ふるさと給食週間」を3回実施し、毎月19日から23日にかけて「ふるさと給食」を実施するとともに、地産地消推進会議を2回実施することで、給食への地場産品の使用拡大を図り、学校給食における地場産物の使用率を46.0%とする。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・小中学校等と連携し、栄養教諭による「食に関する指導」が実施できた。 ・「ふるさと給食週間」を年に3回実施し、毎月「ふじのくに地産地消の日」である23日を中心に地元食材を活用したメニューを1品提供するとともに、地産地消推進会議を年1回実施できた。 ・年間を通じた地産地消率(県内産)を36.61%とすることができた。	
	B	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・小中学校等と連携し、栄養教諭による「食に関する指導」が実施できた。 ・「ふるさと給食週間」を年に3回実施し、毎月「ふじのくに地産地消の日」である23日を中心に地元食材を活用したメニューを1品提供するとともに、地産地消推進会議を年2回実施できた。	
今後の取組課題 又は改善点	・引き続き、小中学校と連携しながら「食に関する指導」を実施し、「ふるさと給食週間」などを活用し、地場産品の使用拡大を図っていく。 ・地産地消会議については在り方を見直し、より広く深く地元生産者からの納品ルートの開拓が必要である。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	安全でおいしい給食の安定的な提供	
施策名 (中分類)	安定した給食業務の実施 【⑧-(3)】	担当課・係 教育総務課 給食センター係
施策の目的	安心安全な学校給食作りを推進するために、安定した給食業務(給食食数の管理、給食会計、施設の維持管理等)の実施を図る。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・学校給食センター運営委員会を5回実施し、給食実施回数や給食費の額等の意見を聴く。 ・給食費未納者に対して徴収を働きかけ、収納率の向上を図る。 ・給食センター施設及び設備の適切な維持管理、法定点検、改修を実施するとともに、老朽化した給食用機器及び備品等を計画的に更新することで、安心安全な給食の安定的供給を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・学校給食センター運営委員会を4回実施し、給食実施回数や給食費の額等の意見を聴き、給食費を適正に管理することができた。 ・給食費未納者に対して徴収を働きかけ、収納率100%(R8.5.31時点)とすることができた。 ・蒸気ボイラー、蒸気配管及び空調設備の修繕を実施し、安心安全な給食の安定的供給を図ることができた。	
	B	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・学校給食センター運営委員会を2回実施し、給食実施回数や給食費の額等の意見を聴くことができた。 ・給食費未納者に対して徴収を働きかけ、収納率99.95%(R7.5.31時点)とすることができた。 ・給食センター施設及び設備の適切な維持管理、法定点検、改修を実施するとともに、老朽化した給食用機器及び備品等を計画的に更新することで、安心安全な給食の安定的供給を図ること	
今後の取組課題 又は改善点	・学校給食センター運営委員会を実施し、給食実施回数や給食費の額について意見をまとめ、学校給食に必要な質及び量を確保するために必要な給食費を適正に設定していく。 ・給食費について、収納率99.95%以上となるように適正に徴収業務を行っていく。 ・給食センター施設の長期的な運用を図るため、建物設備運用計画の策定が必要である。	

基本理念	「豊かな学びで歩み続ける人づくり」	
「豊かな学びで歩み続ける人」とは	～自立した人、思いやりのある人、いつまでも学び続ける人～	
基本方針	3 市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進【社会教育】	
重点施策(大分類)	施策(中分類)	主要事業(事務・事業)
① 地域で子どもを守り育てる活動の推進 (社会教育課)	(1) 住民主導による子どもの健やかな成長を育む組織づくり	ア 青少年健全育成市民会議活動の推進
		イ 青少年街頭生活指導の実施
		ウ 菊川市子ども会連合会等の青少年団体の支援
	(2) 地域と学校の連携	ア 社会教育委員による地域連携活動の推進
		イ 中学生ふるさと未来塾の実施
	(3) 豊かな感性と社会性を育む活動の推進	ア ボランティア体験活動支援センターの運営
		イ 活動級別認定の実施及び表彰
	(4) 豊かな感性と社会性を育む体験活動の推進	ア どきどきフェスティバルの開催
		イ 小谷村地域間交流体験教室の開催
		ウ はたちの集いの開催
	(5) 新・放課後子ども総合プランの推進	ア 放課後子ども教室の実施
		イ 放課後子ども教室と放課後児童クラブとの連携
② 家庭の教育力向上 (社会教育課)	(1) 家庭教育の推進	ア 家庭教育学級の開設委託
		イ 家庭教育支援員の派遣・推薦
③ 生涯学習活動の推進 (社会教育課)	(1) 生涯学習活動の推進	ア 生涯学習情報の提供
		イ 生涯学習推進研修会の開催
		ウ 生涯学習講座の開催及び講座内容の見直し
④ 鑑賞機会の提供 (社会教育課)	(1) アエル指定管理者との連携	ア 芸術文化振興事業の委託
		イ 文化会館アエル運営委員会の開催
	(2) アエルの計画的な施設の改修	ア 設備改修計画に基づく工事及び工事関連業務委託の実施
⑤ 市民の文化・芸術活動への支援 (社会教育課)	(1) 文化芸術活動の振興	ア 文化祭、絵画コンクール、書き初め展の開催委託
		イ 文化協会活動の支援、ゆかいな体験講座の実施
		ウ 芸術文化大会等への出場者(団体)の顕彰
		エ 文芸誌の編集・刊行
	(2) 中央公民館の管理・運営	ア 公民館施設の維持管理
		イ 公民館施設の貸出
	(3) 文化振興計画の推進	ア 文化振興計画推進委員会の開催
		イ 地域資源を生かした文化資源交流事業の実施

基本理念	「豊かな学びで歩み続ける人づくり」	
「豊かな学びで歩み続ける人」とは	～自立した人、思いやりのある人、いつまでも学び続ける人～	
基本方針	3 市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進【社会教育】	
重点施策(大分類)	施策(中分類)	主要事業(事務・事業)
⑥ 文化財の保存・周知・活用 (社会教育課)	(1) 文化財の保護	ア 文化財保護審議会の開催
		イ 国指定文化財等の維持管理及び整備
		ウ 文化財防火訓練の実施
	(2) 文化・顕彰活動支援	ア 指定無形民俗文化財の伝承及び活用に対する補助
		イ 地域文化財活動団体への支援
		ウ 関口隆吉氏顕彰事業
	(3) 文化財の活用	ア 黒田家代官屋敷資料館の運営
		イ 街道画及び埋蔵文化財等の展示・活用
		ウ 埋蔵文化財センターの運営・管理
		エ 塩の道公園の管理及び活用
	(4) 史跡の管理・活用	オ 歴史検定事業の実施
		ア 史跡菊川城館遺跡群整備委員会の開催
	(5) 開発に伴う埋蔵文化財の保護・管理	イ 史跡菊川城館遺跡群整備の実施
		ア 周知の埋蔵文化財包蔵地の新規登録、範囲変更及び調査履歴等の更新
		イ 各種開発による試掘・確認調査の実施
		ウ 発掘調査の実施、発掘調査報告書の刊行
⑦ 誰もがスポーツに触れ合う機会の創出 (社会教育課)	(1) 子どものスポーツ活動の充実	ア 楽しく体を動かす機会の提供
	(2) 青年期・壮年期のスポーツ活動の充実	ア 市スポーツ協会所属団体の活動推進
		イ 親子でできるスポーツイベントの開催
	(3) 高齢期のスポーツ活動の充実	ア 高齢者を対象としたスポーツ大会の開催
	(4) 障がい者のスポーツの推進	ア パラスポーツを取り入れたイベントの開催や情報提供
	(5) 健康な体づくりにつながるスポーツの推進	ア ウォーキングを楽しむことのできる環境の整備
		イ サイクリングによる健康づくり
	(6) 誰もが取り組めるスポーツイベントの開催	ア スポーツレクリエーションフェスティバルの開催
	(7) スポーツ情報の内容拡充	ア スポーツ情報の情報発信
	(8) 関係部署、民間事業者との取り組み	ア 民間事業者との連携によるスポーツ振興
	(9) 定期的なニーズ把握による新たな教室等企画の取り組み	ア 定期的なニーズ把握による、時代に即した教室の開催

基本理念	「豊かな学びで歩み続ける人づくり」	
「豊かな学びで歩み続ける人」とは	～自立した人、思いやりのある人、いつまでも学び続ける人～	
基本方針	3 市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進 【社会教育】	
重点施策(大分類)	施策(中分類)	主要事業(事務・事業)
⑧ スポーツ団体・スポーツ活動への支援 (社会教育課)	(1) スポーツグループ・クラブの自立支援	ア 菊川市スポーツ協会事業との連携
		イ 菊川市スポーツ少年団員の確保
		ウ 中学生運動部活動の地域スポーツ活動への移行の検討
	(2) スポーツ団体の交流と情報交換	ア 地域や地元出身の選手、チームが出場するスポーツ大会の応援企画
	(3) 総合型地域スポーツクラブの充実	ア 人材の育成と会員確保、組織の拡大
	(4) アスリートの育成支援	ア 民間スポーツ団体等との連携
		イ 全国大会等に出場する選手への奨励金交付と激励会の実施
⑨ スポーツ活動の場の提供 (社会教育課)	(1) スポーツを通じた地域づくり	ア コミュニティ協議会との連携
		イ スポーツ推進委員の資質向上
	(2) スポーツボランティアの育成と活動支援	ア スポーツボランティアの機会の創出
	(3) スポーツ施設の維持・管理・改善	ア スポーツ施設の整備・改修
		イ 指定管理者との連携による体育施設の管理運営
		ウ 施設予約システムの利便性向上

令和7年度 点検評価シート(重点施策)

基本方針3	市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進					
重点施策①	地域で子どもを守り育てる活動の推進			担当課	社会教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値 (R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められていると思う」と回答する市民の割合（市民アンケート調査結果）	71.0%	68.4%	64.3%	68.9%		82.0%
菊川市ボランティアクラブ登録者数	178人	233人	255人	287人		350人
2. 成果指標の分析と課題						
・コロナ禍を経て、小学生の参加を再開したことにより登録者数は増加傾向にあるが、ボランティア希望者と受入施設とのマッチング作業が複雑となっている。 ・多くの希望者にボランティアに取り組んで貰うためにも、効率的でわかりやすい作業が必要となっている。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・ボランティアの受入施設と参加希望者のマッチング作業を効率よく行うための、流れの整理、資料や周知方法などの検討を行う。						

基本方針3	市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進					
重点施策②	家庭の教育力向上			担当課	社会教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値 (R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
家庭教育支援員の活動回数	7回/年	6回/年	7回/年	7回/年		16回/年
2. 成果指標の分析と課題						
・共働きの家庭が多く保護者が集まる機会が減少している。 ・支援員の活動内容は巡回訪問4学級と希望3学級であった。希望する学級が決まっており、新たに希望する学級が少ないことから、これまで以上に支援員活動への理解を深めていく必要がある。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・家庭教育学級や支援員活動への理解を深めるため、全保育園・認定こども園を巡回対象とし、家庭教育学級の意義や目的について直接保護者に説明をする。						

令和7年度 点検評価シート(重点施策)

基本方針3	市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進					
重点施策③	生涯学習活動の推進			担当課	社会教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値 (R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
生涯学習講座の参加者数	230人	259人	263人	339人		600人
「生涯にわたり学習活動ができるまちだと思う」と回答する市民の割合(市民アンケート調査結果)	52.6%	52.3%	51.3%	53.2%		62.0%
2. 成果指標の分析と課題						
・ステップアップ講座10回シリーズ講座を12種、5回シリーズ講座を6種、1回講座を10種企画・運営したことで、コロナ禍から申込者数、参加者数が伸びている。 ・参加者数の増加を図るためには講座数の増加が必要であるが、受講者対応や講座運営の事務量が繁雑であり、講座数増加は困難な状況にある。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・参加者を増加させる取組みとしては、講座数を維持しつつ、大人数の受け入れ可能で広い会場で行われる運動系の講座の充実や講演会型の講座などを企画して行く。						

基本方針3	市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進					
重点施策④	鑑賞機会の提供			担当課	社会教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値 (R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
菊川文化会館アエルの入場者数	72,229人	116,912人	111,650人	108,280人		137,000人
2. 成果指標の分析と課題						
・アエルの入場者数は施設改修による休館期間等の影響により減少している。引続き、目標となる137,000人(H31利用人数)に向けて、各種事業を企画、実施する。 ・事業を継続して実施するため、経年劣化する施設設備等について、計画的な更新が必要である。 ・物価上昇に伴う各種経費の上昇が施設の管理・運営に影響している。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・アエルを活用した魅力ある事業の企画・開催については、今後も指定管理者との協議を継続する。 ・施設設備の状態については、定期点検や臨時点検を継続して実施する。また、更新が必要な設備は、計画的な更新を行う。 ・施設の適切な管理運営を維持するため、必要な支援を継続する。						

令和7年度 点検評価シート(重点施策)

基本方針3	市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進					
重点施策⑤	市民の文化・芸術活動への支援			担当課	社会教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値 (R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
菊川市文化祭への来場者数	1,563人	1,488人	1,379人	1,017人		4,000人
「気軽に芸術文化にふれられるまちだと思う」と回答する市民の割合(市民アンケート調査結果)	42.8%	44.0%	41.0%	41.4%		54.0%
2. 成果指標の分析と課題						
・文化祭への来場者数は減少傾向にあるが、要因としては文化協会会員及び登録団体の減少や各登録団体会員の高齢化により、団体に関係する人数が減少したこと、天候不良等が考えられる。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・市民が活動内容を知り、興味を持ち、活動に参加するよう促すため、各登録団体がそれぞれの活動内容を外部に向けて情報発信することや活動の体験会等の開催に取り組む。						

基本方針3	市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進					
重点施策⑥	文化財の保存・周知・活用			担当課	社会教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値 (R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
「歴史・文化遺産が継承され活かされているまちだと思う」と回答する市民の割合(市民アンケート調査結果)	49.9%	50.6%	48.2%	49.6%		56.0%
代官屋敷資料館の入館者数	1,406人	1,177人	1,155人	1,274人		2,000人
2. 成果指標の分析と課題						
・「歴史・文化遺産が継承され活かされているまちだと思う」と回答する市民の割合は昨年度と比較して上昇した。 ・代官屋敷資料館の入館者数も2月の梅まつり期間中の来場者が昨年度よりも増加したことから、年間入館者数は増加している。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・歴史検定などを通じて、市民に菊川市の歴史や文化財に親しんでもらう。						

令和7年度 点検評価シート(重点施策)

基本方針3	市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進					
重点施策⑦	誰もがスポーツに触れ合う機会の創出			担当課	社会教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値 (R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
「健康づくりに取り組む人が増えていると思う」と回答する市民の割合(市民アンケート調査結果)	64.4%	61.5%	60.3%	62.3%		70.0%
「気軽にスポーツやレクリエーション活動ができる環境が整っていると思う」と回答する市民の割合(市民アンケート調査結果)	50.4%	49.7%	51.7%	49.6%		60.0%
2. 成果指標の分析と課題						
・令和4年度に第2次菊川市スポーツ振興基本計画策定のために実施した調査においても、スポーツを行わなかった理由として「仕事や家事が忙しい」との意見が多く、誰もが手軽に行えるようなきっかけづくりや環境づくりが必要である。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・個々の年齢や生活環境に応じた運動習慣を身につけていただけるよう、スポーツ推進委員や健康づくり推進委員と連携した事業に取り組んでいく。						

基本方針3	市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進					
重点施策⑧	スポーツ団体・スポーツ活動への支援			担当課	社会教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値 (R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
市スポーツ協会、スポーツ少年団の加入者数	2,090人	2,078人	1,990人	1,945人		2,900人
2. 成果指標の分析と課題						
・菊川市スポーツ協会・スポーツ少年団の加入人数は、前年度と比べ若干であるが減少した。 ・スポーツ協会登録団体も高齢化による人員減少が進み、菊川市ソフトボール協会が40人の減となっている。スポーツ協会登録団体への新たな加入者の勧誘などをしていく必要がある。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・少子高齢化や人口減少、多様性などの社会状況の変化を捉え、指導者育成や会員の確保、組織運営について検討が必要である。						

令和7年度 点検評価シート(重点施策)

基本方針3	市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進					
重点施策⑨	スポーツ活動の場の提供			担当課	社会教育課	
1. 成果指標						
指 標	基準値 (R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
市営スポーツ施設及び一般開放を行う学校体育施設年間利用者数(延べ)	293,055人	379,232人	366,343人	337,303人		300,000人
2. 成果指標の分析と課題						
・スポーツ施設の利用者数については、減少傾向が続いている。 ・堀之内体育館は建替工事により、令和7年11月から使用ができない状況である。新たな体育館の運用開始を令和9年7月に予定していることから、準備を進めていく必要がある。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・体育施設の適正な管理として、令和8年度は尾花運動公園多目的広場のLED化の実施設計を行い令和9年度の工事につなげていく。						

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	地域で子どもを守り育てる	
施策名 (中分類)	住民主導による子どもの健やかな成長を育む組織づくり【①－(1)】	担当課・係 社会教育課 社会教育係
施策の目的	青少年の健全育成や非行等の問題行動防止に向け、支部の青少年健全育成会活動を通じて、家庭、学校、地域住民など、地域社会と行政(関係機関)がそれぞれの役割と責任を担いつつ相互に協力し、「地域の青少年は地域で安全に守り育てる」を柱とした健全育成事業を推進する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・青少年健全育成市民会議活動及び青少年街頭生活指導を実施し、「地域の青少年は地域で守り育てる」意識の向上を図る。 ・市子ども会連合会等の青少年活動団体への支援を行い、青少年の健全育成や交流を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・地域・家庭・学校が連携して子ども達の健やかな成長を育むとともに、青少年に係わる事件や事故を未然に防ぐことを目的に、JR菊川駅前での啓発活動(青少年の非行・被害防止強調月間街頭キャンペーン、7月1日)と街頭生活指導を実施した。(夏季7月18日、冬季12月12日) ・菊川市子ども会連合会による「未来レター事業・だしがしやさんごっこ」の実施を支援した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・地域・家庭・学校が連携して子ども達の健やかな成長を育むとともに、青少年に係わる事件や事故を未然に防ぐことを目的に、JR菊川駅前での啓発活動(青少年の非行・被害防止強調月間街頭キャンペーン、7月2日)と街頭生活指導を実施した。(夏季7月19日、冬季12月13日) ・菊川市子ども会連合会による「未来レター事業」と「好きなものビンゴ」の実施を支援した。	
今後の取組課題 又は改善点	・青少年健全育成活動については、引き続き関係機関との連携及び情報共有に努める。 ・市子ども会連合会等の青少年活動団体が実施する事業への支援も継続する。	

施策名 (大分類)	地域で子どもを守り育てる		
施策名 (中分類)	地域と学校の連携【①－(2)】		担当課・係 社会教育課 社会教育係
施策の目的	地域と学校が相互に連携し、地域住民等の幅広い参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支援することにより、住民等の学習成果を子育てに活かす場の拡充及び地域の教育力の活性化を図る。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・社会教育委員会定例会を6回開催し、市の社会教育事業への助言や地域連携活動の推進により、地域の教育力の活性化を図る。 ・市内公立中学生向けの企業説明会「ふるさと未来塾」を開催し、地元の企業等を知ること、故郷を愛する気持ちを育むとともに、興味、関心に基づく勤労観、職業観の形成を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・社会教育委員会では「地域と学校の連携」をテーマに6回の会議を行い、学舎毎の学習会の開催を企画する他、「はたちの集い」(1/11アエル)での運営補助を行うことにより、地域の教育力の活性化が図られた。 ・「ふるさと未来塾」では、市内の企業や団体の協力により、市内3中学校で実施した。また、実施後のアンケートでは、中学生から「大人になっても菊川市へ住み続けたい」と思うの回答が全回答の7割ほどあり、協力された企業・団体からは「学生と関わる良い機会」との意見をいただいた。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・社会教育委員会では「地域と学校の関わりを考える」をテーマに昨年から企画する勉強会を各学舎で開催した(菊西8/1、岳洋8/3、菊東12/21)他、「はたちの集い」(1/12アエル)での運営補助が行われた。 ・「ふるさと未来塾」では、市内の企業や団体の協力を得て、市内2中学校で実施した。また、実施後のアンケートでは、中学生から「大人になっても菊川市へ住み続けたい」と思うへの回答が多かった事、協力された企業・団体からは「学生と関わる良い機会」との意見をいただいた。		
今後の取組課題 又は改善点	・事前・事後学習の講師謝礼の補助金の活用が数年間ないが、キャリア教育の活用のため、推進を図る。		

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	地域で子どもを守り育てる		
施策名 (中分類)	豊かな感性と社会性を育む活動の推進【①－(3)】	担当課・係	
		社会教育課 社会教育係	
施策の目的	児童・生徒にボランティア活動や社会参加活動への参加を促し、広く社会で活動することを通し社会性や思いやりの心を育て、健やかな青少年の育成を支援する。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・ボランティア体験活動支援センターが各学校及び受入施設と連携し、児童生徒へのボランティア活動実践の場を提供することで、社会性や思いやりの心の育成を図る。 ・児童生徒がボランティア活動を行った時間数に応じて取得したポイントにより、級認定及び表彰を行うこと等により、児童生徒のボランティア活動への参加促進を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・ボランティアクラブ登録者数や活動人数が増加した。(登録者数287名、活動人数197名) ・ボランティア級認定表彰では、継続して活動した2名を表彰した。(1級1名、2級1名)		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・ボランティア対象生徒の拡大により、登録者数や活動人数が増加した。 ・ボランティア級認定表彰では、継続して活動した3名を表彰した。(1級1名、2級2名)		
今後の取組課題 又は改善点	・ボランティアの活動希望者と受入施設とのマッチング作業に多くの時間を要する状況にある。活動希望者と受入施設の増加を図るためにも作業を支援するシステムや流れについて検討を進める。 ・今後もボランティア参加者の安全を確保するため、受け入れ先や学校と連携していく。		

施策名 (大分類)	地域で子どもを守り育てる		
施策名 (中分類)	豊かな感性と社会性を育む体験活動の推進 【①－(4)】	担当課・係	
		社会教育課 社会教育係	
施策の目的	次世代を担う子どもたちが、豊かな人間性とたくましさを備えるため、文化的・科学的な興味や関心を掘り起こし、体験や規律ある集団生活を通して人格形成を成すよう事業を推進する。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・どきどきフェスティバル、小谷村地域間交流体験教室を開催し、豊かな感性と社会性の育成を図る。 ・はたちの集いを開催し、将来の菊川市を担う若者の節目を祝福することで、自立心や郷土愛の醸成を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・どきどきフェスティバルでは、焼き雛絵付け体験教室に7名が参加した。また、小谷村地域間体験交流教室では、スキー体験教室に29名が参加した。 ・はたちの集いでは、対象者561名中410名が出席した。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・どきどきフェスティバルでは、土器づくりに10名、焼き雛づくりに7名が参加した。また、小谷村地域間体験交流教室では、スキー体験教室に23名が参加した。 ・はたちの集いでは、対象者472名中347名が出席した。式典及び当日の様子を映し公開した動画は、事業終了後1ヶ月が経過した時点で1,700回再生された。		
今後の取組課題 又は改善点	・どきどきフェスティバルの体験教室では講師の高齢化による事業継続の課題、小谷村地域間体験交流教室では、小谷村の子ども達と交流できる機会についても検討したい。		

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	地域で子どもを守り育てる		
施策名 (中分類)	新・放課後子どもプランの推進【①－(5)】	担当課・係	
		社会教育課 社会教育係	
施策の目的	放課後子ども教室は、地域の方々の参画を得て、児童とともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、児童が地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するものである。また、類似事業である放課後児童クラブとの連携を図り、総合的なあり方の検討を行い、よりよい環境づくりを推進する。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・市内の小学校において、放課後子ども教室を実施し、児童が地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。 ・放課後子ども総合プラン運営委員会を開催し、放課後児童クラブとの連携を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・市内6地区(河城、加茂、堀之内、六郷、横地、小笠北)において放課後子ども教室を開催し、143名が参加したが、内田、小笠東、小笠南においては、体制整備が間に合わず募集に至らなかった。 ・放課後児童クラブとの連携について協議を行ったが、制度上、協力しての事業実施が不可能だった。		
	B	A:十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B:一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C:十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・市内6地区(河城、加茂、堀之内、六郷、内田、小笠北)において放課後子ども教室を開催し、135名が参加されたが、横地では参加希望が無かったため不開催となった。また、小笠東、小笠南においては、体制整備が間に合わず募集に至らなかった。 ・放課後子ども総合プラン運営委員会を2月に開催、相互に意見交換が行われた。		
今後の取組課題 又は改善点	・内田、小笠東、小笠南についてはコーディネーターの不在により、教室を開催できていないため、新たな候補を探す必要がある。		

施策名 (大分類)	家庭の教育力向上	
施策名 (中分類)	家庭教育の推進【②－(1)】	担当課・係
		社会教育課 社会教育係
施策の目的	保護者同士が交流し、「子育て」や「しつけ」について悩みや喜びを話し合う場を設け、子どもの健全な身体と人格の発達を助長するために家庭教育の在り方を学ぶ。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・市内の保育園、認定こども園、小中学校において、家庭教育学級の開設を委託するとともに、家庭教育支援員を、各園及び学校に派遣することで、家庭の教育力向上を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・市内幼保小中において22学級が開設され、各学級で6回以上の活動が行われた。 ・家庭教育支援員による各学級への巡回訪問を7回実施した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・市内幼保小中において22学級が開設され、各学級で3回以上の活動が行われた。また、家庭教育支援員による各学級への巡回訪問を7回実施した。	
今後の取組課題 又は改善点	・家庭教育学級や支援員活動への理解を深めるため、全保育園・認定こども園を巡回対象とし、家庭教育学級の意義や目的について直接保護者に説明をする。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	生涯学習活動の推進	
施策名 (中分類)	生涯学習活動の推進【③－(1)】	担当課・係
		社会教育課 社会教育係
施策の目的	地域での生涯学習活動を推進するため、各種情報提供を行う。また、生活に潤いを与える趣味の講座や、社会問題について視野を広める講座等、幅広い学習の場を提供し、市民が仲間と共に楽しく学びつつコミュニケーション能力を高め、豊かな感性と人間性を養うことができる、学習の場を提供する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・ステップアップ講座、いきいきカレッジ菊川を開催し、生涯にわたる趣味づくりや参加者同士の交流を深めることにより、生活にうおいと活力を与え、教養を高める。 ・生涯学習推進員研修会を開催し、生涯学習活動の推進と地域コミュニティの活性化を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・ステップアップ講座では、12種類の10回講座に156名、6種類の5回講座に66名、10種類の単発講座に117名、延べ339名が参加した。また、いきいきカレッジ菊川では、2会場で35名が参加した。 ・生涯学習推進員研修は10月に開催し、延べ44名が参加した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・ステップアップ講座では、12種類の10回講座に110名、5種類の5回講座に57名、10種類の単発講座に96名、延べ263名が参加した。また、いきいきカレッジ菊川では、2会場で30名が参加した。 ・生涯学習推進員研修は3月に開催し、延べ77名が参加した。	
今後の取組課題 又は改善点	・生涯学習活動が活発化するよう、講座の企画や研修会での啓発を継続する。 ・参加者に欠席時の連絡が徹底されていなかったため、今後は事前連絡を徹底してもらうよう声掛けする。	

施策名 (大分類)	鑑賞機会の提供		
施策名 (中分類)	アエル指定管理者との連携【④－(1)】	担当課・係	
		社会教育課 社会教育係	
施策の目的	アエル指定管理者との連携により、民間のノウハウを活用し、更なる文化振興を図る。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・アエル指定管理者へ芸術文化振興事業を委託し、各種公演を実施することで、市内の芸術文化の振興を図る。 ・月例報告や菊川文化会館アエル運営委員会を3回開催することで、教育委員会と指定管理者の連携を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・市内の芸術文化の振興を図るため、菊川文化会館アエルに業務委託を発注し、8事業を実施した。 ・菊川文化会館アエルの管理運営の連携を図るため月例報告を受ける他、年3回の運営委員会を開催し、委員への状況報告と意見聴取を実施した。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・市内の芸術文化の振興を図るため、菊川文化会館アエルに業務委託を発注し、11事業を実施した。 ・菊川文化会館アエルの管理運営の連携を図るため月例報告を受ける他、年3回の運営委員会を開催し、委員への状況報告と意見聴取を実施した。		
今後の取組課題 又は改善点	・市民に鑑賞機会を提供し芸術文化振興を図るためにも、委託事業を継続する。 ・指定管理者との情報交換と情報発信を継続的に行う。		

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	鑑賞機会の提供	
施策名 (中分類)	アエルの計画的な施設の改修【④－(2)】	担当課・係 社会教育課 社会教育係
施策の目的	アエルは平成4年3月に開館し、随所に経年劣化が著しく、管理運営に支障をきたす恐れがあるため、修繕を実施する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・設備改修計画に基づく工事及び修繕を実施することで、安全かつ円滑な管理運営を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・大ホール吊物機構の更新工事2期目を実施した。 ・小規模修繕では、消火栓スプリンクラー補給水槽修繕、小ホール天井照明機器修繕、空調機の冷温水発生機用オイルポンプ修繕を実施した。	
	A	A:十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B:一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C:十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・大ホール吊物機構の更新工事を実施した。5年度からの繰越工事の第一変電所の受電盤改修工事、空調吸収冷温水機分解整備工事を実施した。 ・小規模修繕では、空調関係のAHU・MD交換工事、冷却塔発停用自動制御機器更新工事、自動制御機器用部品交換を実施した。入口広場投光器改修工事、区画線工事を実施した。 ・業務委託では受電設備PCB検査を実施した。	
今後の取組課題 又は改善点	・経年劣化による施設設備の更新と修繕が必要な状況にある。 ・今後も指定管理者や施設点検業者から設備の状況について聞取りを行い、優先順位を考慮し早期の設備更新に取り組む。	

施策名 (大分類)	市民の文化・芸術活動への支援	
施策名 (中分類)	文化芸術活動の振興【⑤－(1)】	担当課・係
		社会教育課 社会教育係
施策の目的	市民の生涯学習推進のために実際生活に即する教育、学術及び文化に関する事業を行い、もって市民の教養の向上、健康の増進及び情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・文芸誌「文苑きくがわ」の編集を行い、冊子を発刊することで、市民の文化向上と郷土愛の増進を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・文芸誌の発刊では、84点の作品提出があり、文芸誌編集委員による6回の編集作業を経て、第18号を発刊した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・市から委託した3事業は適正に実施された。文化祭は、展示12団体、芸能21団体が参加し、11月2～3日の2日間開催され、延べ1,379名が来場した。絵画コンクールでは、72点の応募が有り、入賞15点のうち5点を表彰した。書き初め展では、422点の応募が有り、入賞41点のうち13点を表彰した。 ・文芸誌の発刊では、67点の作品提出があり、文芸誌編集委員による6回の編集作業を経て第17号を発刊した。	
今後の取組課題 又は改善点	・応募者の高齢化が顕著であり、若年層の応募の増加に取り組む。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	市民の文化・芸術活動への支援	
施策名 (中分類)	中央公民館の管理・運営【⑤－(2)】	担当課・係
		社会教育課 社会教育係
施策の目的	市民の生涯学習推進のために実際生活に即する教育、学術及び文化に関する事業を行い、もって市民の教養の向上、健康の増進及び情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・中央公民館の維持管理及び改修を適切に行うとともに、中央公民館の多目的ホール、会議室、和室等の施設の貸出を行うことで、市民の生涯学習活動の推進を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・保守点検や清掃業務委託、一部系統の空調機工事、多目的ホール非常ドア修繕工事などを実施し、良好な状態を保つとともに、緊急を要する修繕に対応した。 ・生涯学習や文化活動を目的とする施設利用は、前年度と比較して増加傾向にあり、運営審議会において随時報告を行った。	
	A	A:十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B:一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C:十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・保守点検や清掃業務委託、室外機コンプレッサー工事、多目的ホール排煙窓更新工事などを実施し、良好な状態を保つとともに、緊急を要する修繕に対応した。 ・生涯学習や文化活動を目的とする施設利用は、前年度と比較して増加傾向にあり、運営審議会において随時報告を行った。	
今後の取組課題 又は改善点	・経年劣化により、修繕が必要な箇所が増加している。安全かつ継続的な施設運営を行うため、計画的な維持管理が必要である。	

施策名 (大分類)	市民の文化・芸術活動への支援	
施策名 (中分類)	文化振興計画の推進【⑤－(3)】	担当課・係 社会教育課 文化振興係
施策の目的	菊川市文化振興計画の「5か年事業実施計画」の取組を実施するとともに、市民一人ひとりが自ら学び、地域とともに文化の継承・発展を図ります。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・文化振興計画の進捗管理を行うため、必要に応じて文化振興計画推進委員会を開催する。 ・地域資源を生かした文化資源交流事業として「文化財ウォーク」を開催することで、地域の文化や文化財を市内外に広く紹介し、市の魅力を体験する機会を提供する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・11月29日に文化財ウォーク「潮海寺と菊川駅周辺を巡る」を開催し、43名が参加した。 ・潮海寺や菊川駅周辺の文化財を巡りながら地域の歴史を紹介し、身近な文化財に親しんでもらうことができた。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・11月30日に文化財ウォーク「虚空蔵山と秋葉灯籠」を開催し、38名が参加した。 ・小笠南地区の文化財や史跡などを巡り、地域の文化財を紹介することができた。	
今後の取組課題 又は改善点	・文化財ウォークは参加者が増加しており、アンケート結果も好評なことから、引き続き開催し、身近な文化財を市民に知ってもらう機会とする。 ・文化振興計画に関して、計画が滞ることなく進むよう、注意して進捗管理を行っていく。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	文化財の保存・周知・活用	
施策名 (中分類)	文化財の保護 【⑥－(1)】	担当課・係 社会教育課 文化振興係
施策の目的	市内にある指定文化財の維持管理を行うことにより、郷土の貴重な文化財を保護活用していく。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・文化財保護審議会を2回開催し、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査及び審議する。 ・国・県指定文化財等の維持管理及び整備を行い、文化財の保護及び継承を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・文化財保護審議会を2回開催し、嶺田用水関係文書を市の指定文化財に指定した。 ・国指定史跡「菊川城館遺跡群」の維持管理及び整備を行い、文化財の保護及び継承を図った。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・文化財保護審議会を2回開催し、嶺田文書の指定に向けた審議を行った。 ・国指定史跡「菊川城館遺跡群」の維持管理及び整備を行い、文化財の保護及び継承を図った。	
今後の取組課題 又は改善点	・文化財を後世に継承するため、引き続き市内の文化財について指定に向けた調査研究を行う。	

施策名 (大分類)	文化財の保存・周知・活用	
施策名 (中分類)	文化・顕彰活動支援【⑥-(2)】	担当課・係 社会教育課 文化振興係
施策の目的	菊川市に残る地域の文化財を保護するために、文化財の保護や継承を行っている団体に対して指導・支援を行う。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・指定無形民俗文化財の保存、継承活動を行っている団体及び地域文化財活動団体への支援を行い、文化財の保存、継承を図る。 ・関口隆吉氏顕彰事業を実施し、初代静岡県知事関口隆吉の遺徳顕彰を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・指定無形民俗文化財の保存、継承活動を行っている団体2団体と地域文化財活動団体3団体への支援を行った。 ・関口隆吉氏顕彰事業として、月岡の関口隆吉遺徳顕彰碑周辺の草刈り等の維持管理業務を地元顕彰会に委託した。	
	B	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・指定無形民俗文化財の保存、継承活動を行っている団体2団体と地域文化財活動団体3団体への支援を行った。 ・関口隆吉氏顕彰事業として、市内の小学6年生へパンフレットを配布するとともに、小学校のお昼の放送による周知を行った。	
今後の取組課題 又は改善点	・市内の文化財の保存、継承が図られるよう、市民団体への支援を継続する。 ・市民に対する関口隆吉の認知度向上を図るため、引き続き市民へ向けた顕彰活動を行っていく。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	文化財の保存・周知・活用	
施策名 (中分類)	文化財の活用【⑥-(3)】	担当課・係
		社会教育課 文化振興係
施策の目的	発掘調査等により出土した資料の展示や資料館等の収蔵品の展示を行うことにより、文化財の活用を図る。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・菊川歴史検定を開催し、菊川の歴史の周知及び文化財の周知・活用を図る。 ・黒田家代官屋敷資料館及び菊川市埋蔵文化財センター「どきどき」の運営を行うとともに、街道画及び埋蔵文化財等の展示により、市民が文化財に触れる機会を提供する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・12月13日に菊川歴史検定(2級)を開催し、15人が受検、13人が合格した。また、11月24日には、歴史検定事前講座を行い15人が参加。黒田家住宅と菊川市埋蔵文化財センターで文化財の解説を行った。 ・黒田家代官屋敷資料館及び菊川市埋蔵文化財センター「どきどき」の運営を行った。また、郷土の画家杉山良雄氏の街道画の展示や中央公民館での特集展示を行い、市民が文化財に触れる機会を提供した。	
	B	A:十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B:一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C:十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・11月23日に菊川歴史検定(2級)を開催し、42人が受検し、30人が合格した。また、9月28日と10月14日には、歴史検定事前講座を行い延べ49人が参加。菊川の歴史と文化財の周知・活用を図った。 ・黒田家代官屋敷資料館及び菊川市埋蔵文化財センター「どきどき」の運営を行った。また、街道画「安部街道」の展示や中央公民館特集展示を行い、市民が文化財に触れる機会を提供した。	
今後の取組課題 又は改善点	・歴史検定の受検者数が令和6年度と比べて大幅に減少してしまったため、受検者が増加するよう周知を行うとともに、新たに1級の検定を実施し受検者増加を図る。 ・文化財や街道画の展示を定期的実施し、市民が文化財に触れられる機会を提供する。	

施策名 (大分類)	文化財の保存・周知・活用	
施策名 (中分類)	史跡の管理・活用【⑥－(4)】	担当課・係
		社会教育課 文化振興係
施策の目的	市内の周知の遺跡を適切に管理保護することにより、開発などから埋蔵文化財を保護し、次世代に歴史遺産を継承する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・史跡菊川城館遺跡群整備委員会を2回開催し、国史跡菊川城館遺跡群(高田大屋敷遺跡、横地氏城館跡)の整備及び活用を行う。 ・史跡菊川城館遺跡群整備(中の城崩落防止)実施設計を実施するとともに、中の城園路整備工事を実施する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・国史跡菊川城館遺跡群(高田大屋敷遺跡、横地氏城館跡)の整備に向けて、整備委員会を2回開催し、地元代表や専門家委員から意見を聴取した。また、中の城の園路廃止工事および危険樹木の伐採を行ったほか、中の城崩落防止工事の実施設計業務を委託した。	
	A	A:十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B:一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C:十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・国史跡菊川城館遺跡群(高田大屋敷遺跡、横地氏城館跡)の整備に向けて、整備委員会を2回開催し、地元代表や専門家委員から意見を聴取した。また、東の城の園路廃止工事および危険樹木の伐採を行ったほか、レーザ測量業務と来年度施工予定の工事の実施設計業務を委託した。	
今後の取組課題 又は改善点	・引き続き、整備基本計画に従って史跡の整備・維持を行っていく。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	文化財の保存・周知・活用	
施策名 (中分類)	開発に伴う埋蔵文化財の保護・管理【⑥－(5)】	担当課・係
		社会教育課 文化振興係
施策の目的	市内の周知の遺跡を適切に管理保護することにより、開発などから埋蔵文化財を保護し、次世代に歴史遺産を継承する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・各種開発による試掘、確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護及び開発行為との調整を図る。 ・埋蔵文化財包蔵地内での開発に先立って発掘調査を実施し、発掘調査報告書を刊行することで、遺跡の情報を後世に伝える。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・開発に伴う埋蔵文化財の発掘届を64件受理したほか、遺跡の破損の恐れのある開発に先立ち24件の試掘確認調査を実施した。試掘調査のうち、市が実施する棚草の貯留施設整備工事に先立つ開発予定地の試掘調査を実施し、未発見遺跡の有無の確認を行った。 ・未報告であった方吹遺跡の発掘調査報告書を刊行した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・開発に伴う埋蔵文化財の発掘届を53件受理したほか、遺跡の破損の恐れのある開発に先立ち25件の試掘確認調査を実施した。 ・未報告であった白岩西狭間遺跡・栗林遺跡の発掘調査報告書を刊行した。	
今後の取組課題 又は改善点	・開発に伴う埋蔵文化財の適切な保護のため、開発事業者との協議や指導を行う。 ・出土遺物等の整理を計画的に行い、報告書の刊行を進める。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	誰もがスポーツに触れ合う機会の創出		
施策名 (中分類)	子どものスポーツ活動の充実 【⑦-(1)】	担当課・係	
		社会教育課 スポーツ振興係	
施策の目的	乳幼児期は、楽しく遊びながら運動する機会を多く設け、体を動かす喜びや身体の高機能を使った運動に意欲関心がもてるようにすることが必要です。また、学童期は、近年積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められることから、運動習慣が身につけていない子どもに対する支援の充実が課題となっています。そのため、様々な活動を体験できる機会を提供し、子どものスポーツ活動の充実を図ります。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・親子スポーツ教室の開催等により、子どもが楽しく体を動かす機会の提供を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・夏休み期間を利用し7月から8月にかけて全5回で開催。 ・募集から数日で定員数を超え、スポーツ振興係が実施する事業の中で一番人気のある教室であり、親子20組47人が参加し、様々なスポーツを体験してもらうことができた。		
	A	A:十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B:一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C:十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・夏休み期間を利用し7月から8月にかけて全5回で開催。 ・応募初日に、定員一杯となり、キャンセル待ちが出るほど盛況であった。 ・親子20組44人が参加し、様々なスポーツを体験してもらうことができた。		
今後の取組課題 又は改善点	・本事業は7月から8月実施のため、体育館が大変暑い状況であり大型扇風機を使用するなどの対応を実施しているが、熱中症対策として令和8年度は全5回を7月に実施することとした。		

施策名 (大分類)	誰もがスポーツに触れ合う機会の創出	
施策名 (中分類)	青年期・壮年期のスポーツ活動の充実【⑦- (2)】	担当課・係
		社会教育課 スポーツ振興係
施策の目的	青年期は、学校卒業後、スポーツにかかわる機会が減少する時期でもあります。そのため、地域においてスポーツを継続的に続けられる取組を推進します。壮年期は、家庭や職場において充実した時期になることから、自分の嗜好に費やす時間が取りにくくなり、スポーツや運動にもっとも取り組みにくい時期となります。地域住民間のコミュニケーション機会の提供や、親子でできるスポーツ活動を実施するなど、スポーツの楽しさや大切さを伝える機会を提供していきます。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・静岡県市町対抗駅伝競走大会やスポーツ少年団交流会の委託により、市スポーツ協会所属団体等の活動推進を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・静岡県市町対抗駅伝では、市スポーツ協会が実行委員会を設置し、早期からの練習に取り組んだ結果、過去最高の8位入賞、2時間17分28秒と過去最高タイムとなった。 ・スポーツ少年団交流会では、各少年団の子どもたちが垣根を越えて交流を図ることができた。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・静岡県市町対抗駅伝では、市スポーツ協会が実行委員会を設置し早期からの練習に取り組んだ結果、過去最高の9位入賞を果たすことができた。 ・スポーツ少年団交流会には124人が参加し、少年団の垣根を越えてフランクディスクを楽しんだ。	
今後の取組課題 又は改善点	・今後、少子化による団員の減少が見込まれることから、市のスポーツ協会と連携して活動を推進していく。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	誰もがスポーツに触れ合う機会の創出		
施策名 (中分類)	高齢期のスポーツ活動の充実 【⑦-(3)】	担当課・係	
		社会教育課 スポーツ振興係	
施策の目的	高齢になるにつれて運動機能が低下し、疲労回復に時間がかかる時期です。一方で自由に使える時間が増え、スポーツや運動を実施する方の割合が増えてきます。高齢者が無理なくスポーツを楽しむことができる機会の提供に加え、生きがいづくりや健康づくり、介護予防の取り組みを推進します。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・シニア健康体操教室等の高齢者を対象とした事業を実施し、高齢者が無理なくスポーツを楽しむ機会の提供を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・市内3会場、各5回開催。延べ184人が参加し、毎回内容の違う講座を実施し、健康状態を確認しながら、楽しく参加者同士の交流を深め、健康維持に繋げることができた。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・市内3会場、各5回開催。延べ159人が参加し、スポーツを通じて、健康状態の維持、他者との交流を深めることができた。		
今後の取組課題 又は改善点	・会場により参加者数及び性別にばらつきがあることから、令和8年度は参加者数が一番少なかった内田地区センターを六郷地区センターに変更して実施する。		

施策名 (大分類)	誰もがスポーツに触れ合う機会の創出	
施策名 (中分類)	障がい者のスポーツの推進 【⑦-(4)】	担当課・係 社会教育課 スポーツ振興係
施策の目的	障がいのある人にとって、スポーツは健康増進やリハビリテーションに役立つとともに、自立と社会参加に向け、重要な役割を果たしています。関係機関・団体等との連携を強化し、障がいのある人が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを進めます。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・パラスポーツを取り入れたイベントの開催や情報提供により、障がいのある人が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを推進する。 ・ポッチャの普及を図るため、菊川市独自のローカルルールを検討する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・パラスポーツとしてポッチャを普及するため、出前行政講座に取り入れ、高齢者団体や放課後子ども教室などから申し込みがあった。 ・ポッチャをより楽しめるよう菊川市独自のローカルルールをスポーツ推進委員と検討した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・パラスポーツとしてポッチャを取り入れるため、スポーツ推進委員を対象に講習会を実施。また、ポッチャの用具を購入した。	
今後の取組課題 又は改善点	・ポッチャを多くの方に楽しんでもいただけるよう、菊川市独自でローカルルールを作成する。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	誰もがスポーツに触れ合う機会の創出		
施策名 (中分類)	健康な体づくりにつながるスポーツの推進【⑦- (5)】	担当課・係	
		社会教育課 スポーツ振興係	
施策の目的	平均寿命が延伸し、健康寿命との差が拡大していくと、支援が必要な期間が延び、個人の生活の質の低下にもつながります。個々の年齢や生活環境に応じた運動習慣を身につけることで、心身機能の維持や健康増進の向上を図ります。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・ウォーキングを楽しむことのできる環境の整備やサイクリングによる健康づくりに関する広報を行うことにより、心身機能の維持や健康増進の向上を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・スポーツ振興基本計画の庁内連絡委員である健康づくり課が継続的にウォーキングコースの周知を実施。 ・サイクリングコース策定のため、菊川河川敷コースの試走を実施。		
	A	A:十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B:一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C:十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・スポーツ振興基本計画の庁内連絡委員である健康づくり課がウォーキングコース2コースを設定しマップを作成。 ・市内団体が実施するウォーキング情報を市の広報紙に毎月掲載した。		
今後の取組課題 又は改善点	・サイクリングコースの設定及び市内団体が実施するウォーキング情報を市の広報紙に毎月掲載していく。		

施策名 (大分類)	誰もがスポーツに触れ合う機会の創出		
施策名 (中分類)	誰もが取り組めるスポーツイベントの開催 【⑦- (6)】	担当課・係	
		社会教育課 スポーツ振興係	
施策の目的	子どもから大人まで誰もが気軽に楽しむことができるレクリエーションスポーツのイベントや全国のマラソン愛好家と市民が交流できるマラソン大会等のスポーツイベントを開催します。また、スポーツを通じて交流を深めていくことは、地域の活力を生み出し、連帯感の醸成にもつながります。地域の意欲に応じてスポーツイベント等を協働により取り組んでいきます。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・様々なレクリエーションスポーツを体験し楽しむことができる「スポーツレクリエーションフェスティバル」の開催や、市スポーツ協会自主事業「菊川City マラソン」、アプロス菊川主催の「深蒸し茶の里' 菊川ファン駅伝」の開催により、スポーツを通じて交流を深めるとともに、連帯感の醸成を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・前年度雨天により中止した「スポーツレクリエーションフェスティバル」を2年振りに開催し、多くの親子連れに楽しんでいただいた。 ・Cityマラソンを中央公民館スタート・ゴールとし、会場の管理や主催団体と連携し、情報発信等を実施した。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・スポーツを気軽に楽しむことができる「スポーツレクリエーションフェスティバル」が雨天中止となり、市の主催事業の一つが実施できなかった。 ・Cityマラソンや菊川ファン駅伝では、それぞれの主催団体と連携し、情報発信等を実施した。		
今後の取組課題 又は改善点	・アプロス菊川が実施している「深蒸し茶の里' 菊川ファン駅伝」と市の「市民健康駅伝競走大会」が同会場で同時期に実施されていることから、合同開催について検討していく。		

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	誰もがスポーツに触れ合う機会の創出	
施策名 (中分類)	スポーツ情報の内容拡充 【⑦-(7)】	担当課・係 社会教育課 スポーツ振興係
施策の目的	誰にも平等に情報が提供できるよう、広報紙や回覧板、市のホームページ、公式SNSなどで情報提供を行います。また、スーパーマーケットや金融機関、郵便局など、不特定多数の人が目にしやすい場所への掲示をはじめ、情報機器を用いたソーシャルメディアなど、新たな情報手段を活用した情報発信を行います。このほか、スポーツ教室への参加経験者に対しても、新たな講座や教室を開講する際にはお知らせするなど、仲間を増やす活動にも取り組んでいきます。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・スポーツ情報に関して広報紙を活用するとともに、ホームページや公式SNSを活用した情報発信を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・各種事業について、広報紙や市のSNSを活用し情報発信を実施した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・各種事業について、広報紙や市のSNSを活用し情報発信を実施した。 ・スポーツレクリエーションフェスティバルについては、外国語版のチラシを作成し、市内外国人学校に配架した。	
今後の取組課題 又は改善点	・市のSNSを活用して、各種事業の情報発信を継続していく。	

施策名 (大分類)	誰もがスポーツに触れ合う機会の創出		
施策名 (中分類)	関係部署、民間事業者との取り組み【⑦-(8)】	担当課・係	
		社会教育課 スポーツ振興係	
施策の目的	スポーツに関する事業に関して、民間事業者と本市が対話を通じて連携を深め、相互が持つ資源やノウハウを活用した「共創」や市各担当課で相互に連携を図り、市民の誰もがスポーツに参加しやすい環境づくりに取り組みます。また、事業計画は、期間内であっても市スポーツ推進審議会に報告・諮問し、計画の目標及び施策の見直しを行います。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・包括連携協定やスポーツ協定を実施している民間企業と協力し、事業や啓発活動を実施することにより、スポーツ振興の推進を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・三遠ネオフェニックスと3月にスポーツ協定を締結した。 ・民間企業からの招待試合、三遠ネオフェニックスによる小学校訪問事業等の情報を発信し、事業の啓発に努めた。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・民間企業からの招待試合、三遠ネオフェニックスによる小学校訪問事業やジュビロ磐田サッカー巡回教室等の情報を発信し、事業の啓発に努めた。		
今後の取組課題 又は改善点	・スポーツ協定を締結しているブレス浜松や三遠ネオフェニックスからの情報を市のSNS等を活用して市民に発信していく。		

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	誰もがスポーツに触れ合う機会の創出		
施策名 (中分類)	定期的なニーズ把握による新たな教室等企画の取り組み【⑦-(9)】	担当課・係	
		社会教育課 スポーツ振興係	
施策の目的	各担当課は、定期的にニーズの把握を行い、社会情勢やニーズの変化に伴う課題に対応すべく新たな事業の可能性に関して検討し、一人でも多くの市民がスポーツや運動に参加できる機会の提供を行います。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・スポーツ教室やイベント開催時に、参加者へのアンケート調査を実施し、新たな教室の企画に活用する。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・前年度のアンケート結果に基づき、事業内容や運営方法を変更するとともに、教室やイベント参加者に引き続きアンケートを実施した。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・市が実施する教室やイベント参加者に対してアンケートを実施した。		
今後の取組課題 又は改善点	・アンケートによる意見を確認し、事業内容の見直しや運営方法の検討を実施していく。		

施策名 (大分類)	スポーツ団体・スポーツ活動への支援	
施策名 (中分類)	スポーツグループ・クラブの自立支援【⑧-(1)】	担当課・係 社会教育課 スポーツ振興係
施策の目的	市スポーツ協会は、平成24年4月から特定非営利活動法人としてスタートを切り、各種事業を展開し、スポーツ振興に大きく寄与しています。市スポーツ協会の育成・強化を図ることで、体力及び競技力の向上や会員間のコミュニケーションの活性化にとどまることなく、健康増進や青少年健全育成も推進していきます。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・菊川市スポーツ協会で組織されるスポーツ少年団本部の活動を支援し、各団体の育成強化や青少年の健全育成を図る。 ・市スポーツ協会や学校教育課と連携し、中学生未来の部活動在り方検討会を開催するとともに、地域展開に向けた専門部会を開催する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・中学生部活動の地域展開を進めるため、未来の部活動在り方検討会を7回実施した。 ・令和8年8月から地域展開を行うため、剣道と卓球の専門部会を開催し、協議を実施した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・中学生部活動の地域移行を進めるため、未来の部活動在り方検討会を7回実施、また、3種目について専門部会を開催し、10月から陸上競技の試行をアプロス菊川を母体として実施した。	
今後の取組課題 又は改善点	・令和8年度から、部活動の地域展開事業を学校教育課教育改革推進係が主担当として進めていくことになった。今後の認定地域クラブの施設利用について連携しながら協議を実施していく。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	スポーツ団体・スポーツ活動への支援		
施策名 (中分類)	スポーツ団体の交流と情報交換 【⑧-(2)】	担当課・係 社会教育課 スポーツ振興係	
施策の目的	本市並びに近隣都市で開催されるプロスポーツ大会などの情報提供を行うとともに、地域や地元出身の選手、チームが出場する全国大会等の応援体制を支援します。友好都市とのスポーツ交流は、交流の意義を検証し、都市間のスポーツ交流が幅広く実施できるよう検討を進めます。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・近隣で行われるプロスポーツの試合等の情報提供を行うとともに、地域や地元出身の選手、チームが出場するスポーツ大会の応援等を企画する。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・協定を結んでいるプロスポーツチームや全国大会、東海大会に出場する団体や個人が市長並びに教育長への表敬訪問の日程調整を図り、15件の表敬訪問を実施することができた。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・全国大会や、東海大会に出場する団体や個人が市長や教育長への表敬訪問の日程調整を図り13件の表敬訪問を実施することができた。		
今後の取組課題 又は改善点	・市の奨励金制度を広く周知するとともに、表敬訪問の依頼に対して調整を実施する。		

施策名 (大分類)	スポーツ団体・スポーツ活動への支援		
施策名 (中分類)	総合型地域スポーツクラブの充実 【⑧-(3)】		担当課・係 社会教育課 スポーツ振興係
施策の目的	幼児から高齢者までを対象とした運動体験からトップアスリートの育成まで、幅広い市民ニーズに応える目的で設立されたアプロス菊川の運営に対し、クラブが自主的・主体的に活動できるよう基盤となる体制としていきます。また、総合型地域スポーツクラブを運営するためには、スポーツ教室やサークル活動、クラブハウスといった様々な要素が必要となることから、活動拠点の整備等に関しても支援します。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・総合型地域スポーツクラブ「アプロス菊川」の組織体制の強化について協議し、クラブが自主的・主体的に活動できるような体制づくりに努める。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・アプロス菊川については、部活動の地域展開として中学生の受け入れを実施。その他シニア健康体操教室の講師派遣や市民健康駅伝競走の計測機器の借り上げを実施している。		
	B	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・アプロス菊川については、シニア健康体操教室や市民健康駅伝競走において講師や計測機器の借り上げを実施したが、組織の育成、体制強化には繋がっていない。		
今後の取組課題 又は改善点	・総合型地域スポーツクラブとして、指導者の確保など組織体制の強化が必要であるが、現状は指導者の確保による教室等を増やしていくことができていない状態である。		

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	スポーツ団体・スポーツ活動への支援	
施策名 (中分類)	アスリートの育成支援 【⑧-(4)】	担当課・係 社会教育課 スポーツ振興係
施策の目的	地元高校の「高校野球全国制覇」や市内出身者のプロアスリート化に見られるように、トップアスリートの活躍は市民に夢と希望と感動を与えるものです。ジュニア期から一貫した指導体制による選手育成を図るため、市スポーツ協会や競技団体、民間スポーツ団体等と連携し、アスリートの育成を支援します。 また、アマチュアスポーツの全国大会等に出場する個人又は団体に対し、スポーツ大会出場奨励金の交付や激励会を行うことで、競技者の意欲の向上を図ります。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・民間スポーツ団体等との連携やスポーツ講座の開催により、スポーツ活動で生かす知識や技術の習得を図る。 ・全国大会等に出場する選手又は団体への奨励金の交付と表敬訪問を実施することで、更なる活躍及び技術の向上を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・奨励金支給要綱に基づき、9団体、38個人に奨励金を支給。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・奨励金支給要綱に基づき、11団体、51個人に奨励金を支給。	
今後の取組課題 又は改善点	・中学生の部活動地域展開などにより、中体連への参加がクラブチームになることで教育委員会部局の補助金すべてから対象外となるケースが発生したことを踏まえ、令和8年度からの奨励金について一部改正を実施した。改正後の要綱で対応していく。	

施策名 (大分類)	スポーツ活動の場の提供		
施策名 (中分類)	スポーツを通じた地域づくり 【⑨-(1)】	担当課・係	
		社会教育課 スポーツ振興係	
施策の目的	スポーツ推進委員は、各地区からの推薦を受け、地域スポーツの推進役としての業務を担う他、市が主催するスポーツ大会やスポーツ教室などでの指導・助言を行い、本市のスポーツ推進に貢献する貴重な人材といえます。そのため、定例会等により更なる活動の充実を図り、スポーツ推進委員との協働に努めるとともに、各自治会選出のスポーツ委員への研修会の実施等の連携を図ります。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・コミュニティ協議会との連携により、各地域において、更なるスポーツ、レクリエーションの普及を図る。 ・スポーツ推進委員定例会の開催や、各種研修会及び研究大会への参加により、スポーツ推進委員の資質向上を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・市が推奨するポッチャを普及するため、市独自のローカルルールを作成するためスポーツ推進委員の定例会において、実技研修を行った。 ・三市の実技研修会、県の研修会や東海四県研修会に参加し資質向上に努めた。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・教室やイベントを円滑に進めるため、スポーツ推進委員の定例会において、内容の協議や見直しを行った。また、三市の実技研修会、県の研修会や東海四県研修会に参加し資質向上に努めた。		
今後の取組課題 又は改善点	・令和8年度中のポッチャのローカルルールの策定を目指す。 ・令和9年度の東海四県研修会において、本市が研究発表を行うことから、令和8年度中に発表資料の素案を作成する必要がある。		

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	スポーツ活動の場の提供		
施策名 (中分類)	スポーツボランティアの育成と活動支援【⑨- (2)】	担当課・係	
		社会教育課 スポーツ振興係	
施策の目的	市スポーツ協会や市主催のスポーツイベントの運営にあたり、スポーツボランティアの役割は大きなものとなります。スポーツに関心を持ち、様々なイベントのボランティア経験を積むことで活躍できる市民を育成します。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・市スポーツ協会や学校教育課と連携し、中学生の部活動の地域展開の推進や指導者の確保や環境整備等に協働で取り組み体制構築を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・部活動地域展開のため、中学生受け入れ団体となる認定地域クラブ9団体の登録、指導者となり得る人材を見つけるため、競技種目毎に実践検討会を実施し、24人に登録いただいた。		
	A	A:十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B:一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C:十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・部活動地域移行のため、指導者となり得る人材を見つけるため、競技種目毎に実践検討会を実施し、36人に登録いただいた。		
今後の取組課題 又は改善点	・受け入れ団体となる認定地域クラブの増加につながるよう、菊川市スポーツ協会等に情報を共有していく。		

施策名 (大分類)	スポーツ活動の場の提供		
施策名 (中分類)	スポーツ施設の維持・管理・改善 【⑨-(3)】	担当課・係	
		社会教育課 スポーツ振興係	
施策の目的	スポーツ施設の安全・安心な利用のため、拠点となるスポーツ施設の管理と計画的な改修・整備を進めます。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・和田公園多目的広場LED化工事、和田公園多目的広場トイレ建替え等、計画的な改修・整備を行い、スポーツ施設の安全・安心な利用を図る。 ・指定管理者との連携によるスポーツ施設の維持管理及び貸出を実施し、市民のスポーツ活動の場の提供を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・和田公園夜間照明設備LED化工事及び和田公園トイレ建替工事を実施した。 ・総合体育館会議室空調設備修繕、浄化槽内配管修繕などを実施した。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・小笠体育館のLED化工事、和田公園多目的広場及び丹野グラウンドのバックネット改修工事を実施。また、令和7年度に実施する和田公園LED化工事の実施設計及び和田公園トイレ建替えのための実施設計を行った。 ・なお、令和5年度からの繰越しとした菊川公園LED化工事を予定どおり6月に完成することができた。		
今後の取組課題 又は改善点	・令和8年度に尾花運動公園多目的広場の夜間照明設備のLED化実施設計を実施する。 ・市民に安心、安全に体育施設を利用していただくため、継続的な維持管理に努める。		

基本理念	「豊かな学びで歩み続ける人づくり」	
「豊かな学びで歩み続ける人」とは	～自立した人、思いやりのある人、いつまでも学び続ける人～	
基本方針	3 市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進【社会教育】	
重点施策(大分類)	施策(中分類)	主要事業(事務・事業)
⑩ 子どもの読書活動の推進 (図書館)	(1) 読書習慣の定着	ア 子ども読書活動推進計画の着実な実施
		イ ブックスタート事業
	(2) 学校図書館と公立図書館の連携	ア 学校司書巡回事業
		イ 団体貸出の推進
		ウ 子ども司書の養成と活動促進
		エ 学校図書館の整備支援
	(3) 移動図書館の充実	ア 移動図書館巡回事業
		イ 利用者カードの促進
	(4) 青少年サービスの充実	ア ボランティア・インターンシップの支援
		イ YA(ヤングアダルト)コーナーの充実
	(5) 子ども向けイベントの充実	ア こども図書館事業
		イ 親子読書の集い(おはなしステーション)事業
		ウ おはなし会等
⑪ 読書機会の提供と読書活動の啓発 (図書館)	(1) 多様な図書館サービスの提供	ア バリアフリーサービス
		イ 多文化サービス
		ウ 予約・リクエストサービス
		エ 協力貸出・相互貸借の推進
		オ 電子図書館の導入と利用促進
	(2) 課題解決や多様な学習活動等の支援	ア レファレンスサービス等の充実
		イ 特設コーナー等の充実
		ウ パスファインダーの充実
	(3) 情報通信技術(ICT)の活用	ア SNSを通じた情報発信
		イ ホームページの充実
		ウ インターネットサービスの提供
⑫ 読書環境の整備 (図書館)	(1) 計画的な資料収集と蔵書管理	ア 図書館資料の充実
		イ 地域資料等の収集とデジタル化
		ウ 不用図書等の有効活用
	(2) 専門性を備えた職員の育成	ア 専門的な研修等への参加促進
		イ 職員のスキルアップ強化
	(3) 市民協働による図書館運営の推進	ア 図書館ボランティア等への支援
		イ 図書館ボランティア人材の育成
	(4) 効果的な図書館運営の検討	ア 図書館協議会の開催(図書館運営の推進及び検証)
		イ 自主財源確保に向けた取り組みの充実

令和7年度 点検評価シート(重点施策)

基本方針3	市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進					
重点施策⑩	子ども読書活動の推進			担当課	図書館	
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
子どもを対象とした読み聞かせ活動の参加者数	1,708人	3,402人	2,790人	2,476人		2,200人
児童図書の年間貸出冊数(12歳以下の子ども1人当たり)	33.0冊	31.9冊	30.6冊	28.5冊		34.6冊
2. 成果指標の分析と課題						
・基準値(R4)、目標値と比較し、子どもを対象とした読み聞かせ活動の参加者数は達成したが、12歳以下の子ども1人当たりの児童図書の年間貸出冊数は達成できなかった。 ・子どもが自分の興味関心にあった本を手にする機会や、読み聞かせを楽しむ機会を増やしていくことが必要である。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・子どもたちが魅力を感じる図書を揃え、視覚に訴える配架を行う。 ・来館を促す行事及び広報を実施し、図書館の魅力を発信していく。 ・学校との連携や子ども司書の活用により、年齢や発達に応じた本の紹介を行う。						

基本方針3	市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進					
重点施策⑪	読書機会の提供と読書活動の啓発			担当課	図書館	
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
図書館個人利用者数(館内・巡回・電子の個人貸出者合計)	80,595人	80,335人	77,528人	76,022人		83,800人
電子書籍の提供コンテンツ点数(累計)	0点	—	851点	1,504点		2,700点
2. 成果指標の分析と課題						
・図書館個人利用者数(館内・巡回・電子の個人貸出者合計)は、76,022人(うち図書館窓口73,708人、巡回車1,135人、電子図書館1,179人)であった。 ・累計の電子書籍の提供コンテンツ点数は、新たに613点を購入したほか、郷土に関する資料40点を公開した。少子化及び携帯端末の普及による読書環境の多様化などで、図書館利用者数は漸減傾向にある。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・多様なニーズに対応できるよう、幅広い資料の収集、計画的な除籍を行う。 ・来館による利用に加え、電子図書館を活用した非来館型サービスを周知し、利用の増加に向けた取組みを推進する。						

令和7年度 点検評価シート(重点施策)

基本方針3	市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進					
重点施策⑫	読書環境の整備			担当課	図書館	
1. 成果指標						
指 標	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	目標値
図書館における総貸出点数(個人・相互・団体の総数)	342,576点	331,661点	310,946点	295,234点		356,000点
2. 成果指標の分析と課題						
・図書館における総貸出点数(個人・相互・団体の総数)は、基準値(R4)、目標値とも達成ができなかった。 ・少子化及び携帯端末の普及による読書環境の多様化などで、図書館利用者数・総貸出点数ともに漸減傾向にある。						
3. 成果達成に向けた今後の取組						
・多様なニーズに対応できるよう、幅広い資料の収集、計画的な除籍を行う。 ・来館による利用に加え、電子図書館を活用した非来館型サービスを周知し、利用の増加に向けた取組みを推進する。						

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	子どもの読書活動の推進	
施策名 (中分類)	読書習慣の定着【⑩-(1)】	担当課・係
		図書館 図書1・2係
施策の目的	第四次菊川市子ども読書活動推進計画に基づき、子ども自身が主体的に読書に取り組めるような環境整備を進めるとともに、乳幼児期からの読書習慣の定着を図る。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・子ども読書活動推進協議会、子ども読書活動庁内推進委員会及び学校図書館担当者連絡会を開催し、子ども読書活動の推進を図る。 ・6か月児相談時にブックスタートパックの配布を行い、絵本を通した家族のふれあいを推奨する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・子ども読書活動推進協議会及び学校図書館担当者連絡会を開催し、子どもの読書に関する施策に対する意見を聴取及び関係者との情報交換を行った。 ・ブックスタート活動を年22回実施し、絵本を通した家族のふれあいを推奨した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・子ども読書活動推進協議会及び学校図書館担当者連絡会を開催し、子どもの読書に関する施策に対する意見を聴取及び関係者との情報交換を行った。 ・ブックスタート活動を年24回実施し、絵本を通した家族のふれあいを推奨した。	
今後の取組課題 又は改善点	・第四次菊川市子ども読書活動推進計画を推進するため、関係施設や各団体との連携及び協力を継続推進する。	

施策名 (大分類)	子どもの読書活動の推進	
施策名 (中分類)	学校図書館と公立図書館の連携【⑩-(2)】	担当課・係 図書館 図書1・2係
施策の目的	子どもの読書活動の継続のために、学校図書館が機能できるよう公立図書館が連携して事業を実施する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・図書館司書が市内小中学校を月2回程度巡回訪問し、学校図書館の環境整備や図書登録等の支援を行う。 ・菊川市子ども司書養成講座を年10回程度実施し、菊川市子ども司書を認定することにより、子どもの立場から読書活動を推進する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・図書館司書が、市内小中学校を巡回訪問し、学校図書室の整備や図書を活用した学習支援等を行った。(各校年間22回) ・菊川市子ども司書養成講座を10回(開講式と修了式を含む)を開催し、菊川市子ども司書8人を認定した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・図書館司書が、市内小中学校を巡回訪問(2回/月)し、学校図書室の整備や図書を活用した学習支援等を行った。 ・菊川市子ども司書養成講座を10回(開講式と修了式を含む)を開催し、菊川市子ども司書7人を認定した。	
今後の取組課題 又は改善点	・学校図書館を利用した読書活動や学習支援のため、引き続き学校との連携を図る。 ・認定した子ども司書の活動の機会を広げ、同世代に向けた読書活動の推進につなげる。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	子どもの読書活動の推進	
施策名 (中分類)	移動図書館の充実【⑩-(3)】	担当課・係
		図書館 図書1・2係
施策の目的	なかよし2号で市内の小学校を定期的に巡回し、子どもたちが読書に親しむ機会を提供する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・なかよし2号による市内小学校への巡回貸出を、1校あたり年10回程度訪問し、子どもたちが読書に親しむ機会を提供する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・なかよし号による市内小学校への巡回貸出を、1校あたり年10回実施した。 ・貸出冊数は、年間で2,711冊となり、令和6年度実績よりも減冊となったが、ひとりで来館が難しい年齢の児童に対し、貸出しができる機会を提供できた。	
	B	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・なかよし号による市内小学校への巡回貸出を、1校あたり年10回実施した。 ・貸出冊数は、年間で2,842冊となり、令和5年度実績よりも減冊したが、図書館司書が選書した図書を子どもたちに提供できた。	
今後の取組課題 又は改善点	・朝読書や読書週間等の学校行事と連動した巡回を呼びかけ、利用機会の拡大を図る。 ・学校向けの利用案内を作成、周知する。	

施策名 (大分類)	子どもの読書活動の推進	
施策名 (中分類)	青少年サービスの充実【⑩-(4)】	担当課・係
		図書館 図書1・2係
施策の目的	青少年ボランティアやインターンシップを受け入れるとともに、中高生向けの資料の充実を図り、青少年の読書の習慣化をめざす。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・青少年ボランティアやインターンシップの受け入れにより、本や図書館に関わる機会を通じて、進学や就職に役立つ経験を得てもらう。 ・中高生向き資料の充実を図ることで、青少年の読書生活の習慣化を目指す。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・大学生の図書館実習生を1人、中学生の職業体験を10人、高校生の就業体験を2人、小中高生のボランティアを11人受け入れた。 ・実習に特集展示棚づくりや、おすすめ図書紹介文づくりを取り入れることで、若い世代の声を生かした展示につなげる等、青少年の読書の習慣化を目指した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・大学生の図書館実習生を1人、中学生の職業体験を5人、小中高生のボランティアを4人受け入れた。 ・中高生向け図書コーナーに随時新刊を受入れ、中高生年代が興味を持つテーマの展示を行う等、資料の充実を図り、青少年の読書の習慣化を目指した。	
今後の取組課題 又は改善点	・学生の来館者や、実習生を対象としたアンケートで、同世代が本を読むきっかけにつながるアイデア等を聴取するなどし、学生年代における読書活動推進への施策に生かしていく。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	子どもの読書活動の推進	
施策名 (中分類)	子ども向けイベントの充実【⑩-(5)】	担当課・係
		図書館 図書1・2係
施策の目的	子どもたちに図書館や本の世界に親しむきっかけを提供するため、おはなし会などの催事を実施する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・こども図書館及び親子読書の集い(おはなしステーション)を開催するとともに、すいようおはなし会、0・1・2歳児おはなし会、日曜おはなし会等を開催し、子ども達に図書館や本の世界に親しむきっかけを提供する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・7月29日(火)～8月3日(日)の期間、「こども図書館ウィーク」として、各種イベントや教室を開催した。 ・7月5日(土)に、親子読書の集い「おはなしステーション」を開催した。 ・すいようおはなし会、0・1・2歳児おはなし会、日曜おはなし会、さんさんおはなし会を開催した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・8月1日(木)～7日(水)の期間、「こども図書館ウィーク」として、各種イベントや教室を開催した。 ・7月6日(土)に、親子読書の集い「おはなしステーション」を開催した。 ・すいようおはなし会、0・1・2歳児おはなし会、日曜おはなし会、さんさんおはなし会を開催した。	
今後の取組課題 又は改善点	・読み聞かせボランティアと連携し、今後も子どもたちが家族と気軽に物語を楽しむ機会を創出する必要がある。	

施策名 (大分類)	読書機会の提供と読書活動の啓発	
施策名 (中分類)	多様な図書館サービスの提供 【⑪-(1)】	担当課・係 図書館 図書1・2係
施策の目的	すべての人が快適に利用できるよう、図書館の資料やサービスを活用して市民のニーズに応える。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・すべての人が快適に図書館を利用できるよう、多文化への対応、資料の予約及びリクエストの受付等、多様な図書館サービスを提供する。 ・電子図書館の利用者を増やすため、啓発を実施する。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・図書の予約受付数は16,569件、リクエスト受付数は841件であった。 ・年間の相互貸借:1,301冊(内訳 貸出624冊、借受677冊)であった。 ・児童生徒の1人1台端末に、電子図書館ホームページへのショートカットを表示し、利用を啓発した。	
	A	A:十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B:一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C:十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・図書館情報システムの更新に合わせ、電子図書館システムを導入し、運用を開始した。 ・図書の予約受付数17,545件、リクエスト受付数911件であった。 ・年間の相互貸借:1,468冊(内訳 貸出706冊、借受762冊)であった。	
今後の取組課題 又は改善点	・気軽にサービスを利用していただけるよう、WEBによる資料検索・予約サービスの周知を図るとともに、電子図書館の利活用に向けて啓発を実施していく。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	読書機会の提供と読書活動の啓発	
施策名 (中分類)	課題解決や多様な学習活動等の支援【⑪-(2)】	担当課・係
		図書館 図書1・2係
施策の目的	図書館利用者が求める資料や情報を提供するレファレンス・サービス等の充実・高度化に努める。また、生涯学習情報その他の情報提供にも努める。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・市民からの調査依頼に対し、図書館資料を利用して回答するレファレンスサービスを実施する。 ・月1～2回程度、特集コーナーを更新するとともに、パスファインダー(特定のテーマに関する本の探し方、調べ方の案内)を充実し、課題解決や多様な学習活動の支援を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・2,369件のレファレンスを受付した。文学や絵本、郷土に関する内容が多かった。 ・季節や時事の話題等をテーマとした特集展示を各館で月2回以上(76回)実施した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・2,917件のレファレンスを受付した。小説や自然科学、郷土に関する内容が多かった。 ・季節や時事の話題等をテーマとした特集展示を各館で月2回以上(84回)実施した。	
今後の取組課題 又は改善点	・郷土に関する調査を中心に、調査過程を記録・公表し、レファレンスサービスの周知に向けた取組を行う。 ・定期的に展示の入替えを実施し、季節や最新動向にあわせた情報の提供を行う。	

施策名 (大分類)	読書機会の提供と読書活動の啓発	
施策名 (中分類)	情報通信技術 (ICT) の活用【⑪-(3)】	担当課・係
		図書館 図書1・2係
施策の目的	紙媒体とデジタル媒体のハイブリッド図書館として、多様な方法で市民への情報提供を図る。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・図書館のイベント情報や図書館の業務、サービスについて、SNSを活用して発信するとともに、ホームページや広報誌に掲載し、市民への情報提供を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・図書館公式SNS(X)を活用し、各館から原則1日1件の投稿を行った。広報誌「図書館情報」、図書館ホームページや市公式SNSにおける「イベント・お知らせ案内」、電子図書館ホームページ「テーマ別図書紹介」等、多様な媒体による市民への情報発信を行った。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・図書館公式SNS(X)の発信を各館1日1件(2館で2件)行い、定期的な情報提供を行った。市民への情報伝達をより効果的に行うため、図書館システム更新にあわせ、図書館ホームページのリニューアルを行い、電子図書館の周知等を行った。	
今後の取組課題 又は改善点	・図書館が持つ媒体を利用した発信を継続するほか、市公式SNS、連携協力企業等外部の媒体を活用し、日頃図書館を利用する機会が少ない市民の目に触れるよう、幅広い情報発信を行う。	

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	読書環境の整備	
施策名 (中分類)	計画的な資料収集と蔵書管理【⑫-(1)】	担当課・係 図書館 図書1・2係
施策の目的	多様化する市民ニーズに対応するために、一般書、児童書、参考資料、郷土資料、行政資料、視聴覚資料等の確保・充実に努める。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・新刊本の購入や寄贈資料の受入、書架整理を行い、計画的な資料収集と蔵書管理を図る。 ・地域資料の収集を行うとともに、両館が所蔵する古文書をデジタル化の上、図書館ホームページにおいて公開し、市民の生涯学習の支援を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・紙媒体の図書5,926点(内購入5,376点、寄贈等550点)を受け入れた。 ・両館で所蔵する貴重な古文書・地域資料をデジタル化した。電子図書館のホームページで新たに古文書3件を公開した。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・図書7,282点(内購入6,626点、寄贈等656点)を受け入れた。館内整理日における書架整理(各館年7回)、蔵書点検を年1回実施した。(図書館システム更新に伴う臨時休館期間に実施) ・両館で所蔵する貴重な古文書・地域資料をデジタル化した。電子図書館のホームページで5件を公開した。	
今後の取組課題 又は改善点	・受入点数の減は、電子図書館開始に伴い図書購入費が前年対比86%となったこと及び平均単価の上昇に伴う。 ・紙媒体、電子媒体を合わせ、限られた予算で魅力的な選書を行う必要がある。 ・古文書と地域資料について、優先順位を決め計画的なデジタル化を進める。	

施策名 (大分類)	読書環境の整備		
施策名 (中分類)	専門性を備えた職員の育成【⑫-(2)】	担当課・係	
		図書館 図書1・2係	
施策の目的	図書館サービスを担う職員の資質・能力向上と、専門性の高い職員の育成活用を目指す。		
教育委員会による自己評価			
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・初任者やキャリアに応じた研修、職位に応じた研修等、専門的な研修等への積極的な参加を促進するとともに、参加した研修の内容や成果を職員間で共有し、図書館サービスの向上を図る。		
令和7年度実績評価 (施策評価)	・正規職員、会計年度任用職員ともに、図書館業務に必要な知識を得るため年1回以上の研修に参加し、内容を職員間で共有した。		
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。	
令和6年度実績評価	・正規職員、会計年度任用職員ともに、図書館業務に必要な知識を得るため年1回以上の研修に参加し、内容を職員間で共有した。		
今後の取組課題 又は改善点	・勤務年数に応じて専門知識の向上に役立つ研修を受講し、サービス向上を図る。また、動画配信等、日時や場所を問わず受講できる研修を積極的に活用する。		

令和7年度 点検評価シート(施策)

施策名 (大分類)	読書環境の整備	
施策名 (中分類)	市民協働による図書館運営の推進【⑫-(3)】	担当課・係 図書館 図書1・2係
施策の目的	図書に関するボランティア活動の場を創出・提供し、市民との協働による図書館運営を目指す。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・おはなし会、おはなしステーション及びこども図書館等の図書館行事において、ボランティアと協働して事業を実施し、市民協働による図書館の推進を図る。 ・図書館ボランティアを養成する講座や情報交換会を開催し、人材育成を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・おはなしステーション、定例おはなし会等の事業を、ボランティアと協働して実施した。 ・図書館ボランティア養成講座を年2回開催し、読み聞かせや図書の装備のほか、学校図書館に関する内容を学ぶプログラムを交え、人材の育成を図った。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・おはなし会やおはなしステーション、こども図書館等の図書館行事において、ボランティアと協働し、事業を実施した。 ・図書館ボランティア養成講座を年2回開催し、読み聞かせや図書の装備のほか、学校図書館に関する内容を学ぶプログラムを交え、図書館と学校図書館でボランティア活動ができる人材の育成を図った。	
今後の取組課題 又は改善点	・ボランティア団体との連携を継続し、安定した運営を支援する。 ・新たなボランティアの育成を通じて、市立図書館をはじめ、学校等においても活動できる人材の育成を図る。	

施策名 (大分類)	読書環境の整備	
施策名 (中分類)	効果的な図書館運営の検討【⑫-(4)】	担当課・係
		図書館 図書1・2係
施策の目的	効果的な図書館運営、市民サービスの充実向上を図るために図書館協議会を開催し、図書館のあり方等について検討する。	
教育委員会による自己評価		
令和7年度評価指標 (事業計画・目標)	・図書館協議会を3回開催し、委員から図書館運営に関する意見を聴取し、図書館サービスの向上を図る。 ・雑誌スポンサーを募集し、自主財源確保を図る。	
令和7年度実績評価 (施策評価)	・図書館協議会を3回開催し、電子図書館の運用状況、内部規定の改定等について意見を聴取することができた。 ・広報誌やSNS上で雑誌スポンサーの募集を行ったが、新規獲得には至らなかった。	
	A	A: 十分な成果があり、施策の目的が達成された。 B: 一定の成果があり、施策の目的が概ね達成された。 C: 十分な成果が得られず、改善が必要である。
令和6年度実績評価	・図書館協議会を4回(第3回目は書面会議)開催し、休館日の分散及び開館時間の変更について諮問を行い、審議を経て答申を得ることができた。 ・雑誌スポンサーを募集し、4社から内容に関する説明希望があったが、新規獲得には至らなかった。	
今後の取組課題 又は改善点	・協議会委員から、市民目線または関係機関からの意見を聴取し、図書館運営の改善を図っていく。	

外部評価

教育委員会の活動「シート1」及び管理執行する事務「シート2」に対する外部評価

教育委員会の活動及び運営状況

- ・教育について多岐にわたる内容が審議されている。
- ・教育長はじめ委員の方々が、各種行事・大会に参加することにより、実際の教育に関わる方や市民・子どもの状況をつかむことができていると思う。
- ・小中学校・教育施設の訪問により、菊川市の教育の現状をとらえ、職員と懇談することで、教育の質の向上につながっていると感じている。
- ・適切な時期に必要な内容についての審議及び報告がきちんとなされている。
- ・「定例会」の開催日に合わせて「学校及び教育施設訪問」が行われることで、委員の皆さんにとって教育現場の様子を肌で感じるよい機会となっているように思う。
- ・視察研修で加賀市を訪問したことが、示された「学校教育ビジョン」の取組とつながっているように思う。簡単でよいので報告として加賀市での委員の皆さんの学びの内容を示し広く周知したい。
- ・様々な各種行事・大会に参加していてとてもよいことだと思う。さらに、誰（何人）が参加をしたのかを加えるとよい。教育委員の皆さんが、市民の代表として様々な場に積極的に参加していることをPRしたい。

教育委員会の活動に対する点検評価

- ・重要度の高い項目の評価が達成されており、成果があがっていると思う。
- ・教育委員会の活動については、いずれも高い自己評価で、計画的に且つ適切に行われていることがわかる。
- ・実現度の評価において、「A」、「B」の評価がある。その基準が表記から読み取れない。⇒(1)～(4)
- ・次につなげるための点検・評価なのできちんと根拠を示したい。※例(3)と(4)の違い。
- ・首長との連携においては、意見交換の内容を示したい。連携の内容が重要であると考える。

教育委員会が管理執行する事務に対する点検評価

- ・教育に関する計画、予算、人事等が適切に審議されていると思う。
- ・適切に評価されている。

こども政策課に対する外部評価

①幼児教育・保育の質の向上

- ・親子のふれあいを基本とし、安心できる大人との触れ合いを通した心の醸成を進めていくには、絵本の読み聞かせは大切な方法です。全園で推進していることに今後も期待します。
- ・地域社会・私立幼稚園・保育園・認定こども園・小中学校との連携は幼児教育推進の基本となるもの。推進に期待します。
- ・今少子化が進み、目まぐるしく変化する社会の中で、全ての子どもたちが健やかに育つためには、園の果たす役割が大きくなっています。乳幼児期の経験が小学校以降の学びにつながり、その後の人生に大きく関わってきます。だからこそ、幼児教育の質が求められます。今後も、園によって子どもの育ちに差がないよう、一人ひとりの子どもの確かな育ちのために、子どもたちに様々な経験を通して学びを深められる教育・保育の提供を期待します。

②地域社会・私立幼稚園・保育園・認定こども園・小中学校との連携

・小笠北認定こども園は地域の拠点園として、様々な事業を計画し実施してきたと考えます。より拠点園としての事業の推進と役割に期待します。特に民間園を含めた菊川市内の保育士や関係職員の研修育成は欠かせないものでしょう。

・それぞれの地域の歴史や交流を大切にし、行事への参加や地域社会との連携協力の推進に今後も期待します。

・園では、園児とその保護者だけでなく、地域社会を支える様々な職業に携わる人達や、高齢者を含む多様な年齢層等様々な世代間の交流を図りながら、子育ての知識や子育て文化、又地域の伝統文化を伝え合う等、人と人とのつながりを大切にすることが求められます。また、地域における子育て支援の拠点としての役割も担うため、地域の子どもたちの健やかな育成のためにも、引き続き積極的な連携をお願いします。

・園における教育、保育は、遊びを中心とした生活を通して体験を重ねていき、それが小学校以降の生活や学習の基盤になっていきます。しかし、園と小学校では教育方法が異なり、子どもたちにとっては大きな生活の変化となります。だからこそ、学びの連続性を確保するために園と小学校が子どもの育ちを共有し発達の流れを理解することが大切です。今後も小中学校との交流や研修を通して連携を図るよう努めてほしい。

学校教育課に対する外部評価

①小中一貫教育「学びの庭」構想の推進

・「学びの庭」構想はとてもすばらしい取組だと思う。二つの指標の回数が年々増えていて、目標値を大きく上回っている。担当者の努力がうかがえます。

・学舎学校運営協議会は学校・地域社会との「よこの接続」の要になるものだと感じている。岳洋学舎には各校に読書ボランティアグループがあり、活動が続いている。校内に留まっている活動を学舎全体やこども園等との連携に広げていけば、「よこの接続」が広がるとともに「地域の財を生かした教育」につながっていくことになる。

・学舎内各校で図書の仕事をしている司書の方は各校をつなげる役割を担っている。子どもたちに人気のある本、子どもたちに読んで欲しい本などを紹介してほしい。

・学校運営協議会を中学校区単位にしたことで、学校間の連携が進み、「縦のつながり」も強まっていると思う。学舎内の小中学校で共通意識を持って子どもたちを育成していると感じる。

・小中学校の「たての接続」を明確にするために、小中一貫教育のカリキュラムを作成し、意図的、計画的に推進する必要がある。人事異動で菊川市に着任した新しい教職員が小中一貫教育のカリキュラムをもとに進めることができる。

・「たての接続」について、生涯の人間形成の基になる幼児教育と学校教育とのつながりを大切にしたい。小学校と認定こども園等との連携を学校教育側からも施策として取り上げたい。

・幼小のつながりを大切にするためにも架け橋カリキュラムを早期に作成した方がよい。

・コミュニティ・スクールの推進、充実に向け、菊東学舎での地域コーディネーターの試験配置は非常に意味のある方策だった。この成果と課題を精査し、全学舎への効果的な配置を検討していただきたい。

②ICT環境等を生かした魅力ある授業づくり

・1人1台端末をChromebook(クロムブック)に更新し、全校で研修会も実施し、校内ネットワーク環境も改善できているが、20ページの2つの指標が共に目標値を下回る結果となった。強肯定の数値を上げるための検討が必要である。

・ICT環境の整備、情報機器の活用については十分にできていると思う。一人ひとりに確かな学力をつけるための「個別最適な学び」「協働的な学び」にどうつながっているのか。情報機器を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の実践例を市内各校から集め、実践例集としてまとめ、市内教職員で共有化したい。

・学校での使用端末がChromebookに更新されたが、研修会の実施や、ICT推進委員会の実施により、順調に移行することができた。今後も、各学校でのICTの有効活用が推進されるよう、具体的な施策を期待する。

③思いやりに満ちた学校づくり

・子どもの声に耳を傾け、心の痛みを理解し、寄り添う活動を今後もお願いします。

・「楽しい学校」を実現するには教員の資質能力の向上が欠かせない。「⑤こころざしを持った頼もしい教職員の育成」において、有効な研修や指導等、引き続きご尽力いただくことをお願いしたい。

・保護者支援の場「喫茶このゆび」の設定は非常に素晴らしい取組だと思う。子どもは、保護者の影響を強く受けるので、保護者への支援は不登校減少に向け重要だと思う。

④「一人ひとりが生きる教育」の推進

・今後も一人ひとりに寄り添った支援をお願いします。

・安心して学校に通えるよう、防犯教室や通学路の安全点検などをお願いします。

・特別な支援を必要とする児童生徒が増えている中で丁寧な就学支援ができている。

・一人ひとりが生きる教育が行われるために、就学支援委員会の審議数が増えているが、丁寧な審議を願いたい。

・特別支援学級においてICT環境を生かした個別最適な学習の事例研修を進めてほしい。

・外国人児童生徒に対する支援員の配置は効果が大い。外国人児童生徒が安心して学校生活を送ることができている。また、その保護者にとっても必要不可欠だと思う。

・外国人児童生徒への支援として、初期指導教室や支援員の配置は大変有効である。多様性が進む現状において、国籍だけでなく様々な多様性への対応について、検討・実施を望む。

・特別支援学級への入級児童生徒とともに、通常学級において支援の必要な児童生徒、特性をもった児童生徒が増加している。指導に当たる教員の研修(ユニバーサルデザインの授業や個に応じた指導方法等)の必要を感じる。

⑤こころざしを持った頼もしい教職員の育成

- ・22ページ「学校に、信頼することができる先生がいる。」では、肯定的な回答をする児童生徒が多くいて（小学校94.2%、中学校90.6%）、すばらしい結果だと思う。
- ・学び続ける教員研修は、菊川市ならではの研修であり、教職員の主体的な参加により「明日に生きる」内容を受講できる素晴らしい取組だと感じている。

教育総務課・学校給食センターに対する外部評価

⑥学校施設の適正な維持管理・耐震化・長寿命化

- ・学校施設の定期的な点検・改修が行われているから子どもたちが安全に過ごすことができているのだと思う。
- ・学校施設の計画的な維持管理はもとより、突発的な修繕や点検等に適切に対応していただいており、常に安全な状態で教育ができる環境づくりにご尽力いただいている。

⑦安全で安心して教育が受けられる環境づくり

- ・家庭の経済的な理由により就学が困難な児童生徒を少なくするために、支援などで支えてください。
- ・岳洋中学区では経済的な理由により就学が困難な児童生徒が多い。その子たちの円滑な就学のために就学援助を施策目的、評価指標として取り上げて事業計画目標としていることが、安心して教育が受けられる環境づくりにつながっていると思う。
- ・教室環境の整備については、限られた予算を適切に配分し各校において有効に活用できている。

⑧安全でおいしい給食の安定的な提供

- ・安全安心で栄養バランスの整った給食を子どもたちが食べられることに感謝します。
- ・ふるさと給食週間では、地元産の食材を積極的に活用して食への関心を高めて欲しい。
- ・安全・安心な学校給食の提供で最も大切なのは、食中毒や食物アレルギー事故を出さないこと。多様な食物アレルギーを持つ子どもが増えている中で、対応マニュアルに基づき適正な給食を提供することに努め、食物アレルギー事故を起こさなかったことは、学校給食センターの業務が評価されるべきである。
- ・おいしい給食の提供として、目に見える数字として残食率を取り上げたのは良い。残食率を一律に示すのではなく、栄養教諭による栄養指導を行ったあとの残食率、地元生産者からの話を聞かせた後の残食率など、事業と残食率を関連づけるとより実績評価としてわかりやすいものになる。残食率は食育及び地産地消の推進施策の評価指標にした方がよいのでは？
- ・家庭環境の多様化により、家庭での食生活も変化している。食事は、量よりも質を求める傾向にあると感じる。
- ・教員が「食べさせる」のではなく子どもが「食べる」にシフトし、児童生徒が主体的に栄養バランスのとれた食事をする給食の時間にしたい。
- ・行事食を取り入れる等、従来の日本の食文化の良さを伝える献立もあり、ご尽力いただいていると感じる。
- ・何よりも大事なことは食の安全である。衛生管理の徹底とアレルギー食への適正な対応について引き続きご尽力をお願いしたい。

社会教育課（社会教育）に対する外部評価

①地域で子どもを守り育てる活動の推進

- ・子どもが少なくなっているからこそ地域の子どもの守り育てる活動が大切だと思う。私の地区では青少年健全育成とともにサツマイモを育てたり、お祭りのお囃子の練習、宿泊体験等ある。
- ・秋の祭典で幼児から大人まで交流でき、その中でやって良いこと、いけないことを覚えていく。
- ・ボランティアの要請をしたが、結果がでるまでに時間がかかった。
- ・ボランティア活動は心を育むものだと思うが、自主的・積極的に体験してみたいと思える広報や指導ができれば良い。
- ・地域の子どもたちとの活動で上手くできてもできなくても、子ども目線で思いやることが大事。

②家庭の教育力向上

- ・両親がともに働いている家庭が多く、家庭教育も大変だと思う。忙しい中でもがんばってくれている親の姿を見ると少しでも力になりたいと思う。
- ・家庭教育支援員の数が他市に比べ少なすぎます。社会教育委員の皆さんには積極的に支援員になっていただきたい。
- ・忙しい親が多すぎる昨今、家庭内も多様な形態があり、子どもの育て方、学校への期待等いろいろな考えがあると思う。親同士が気兼ねなく本音が言えて、親のストレスが軽減できる場を設けることは大事なこと。

社会教育課（生涯学習）に対する外部評価

③生涯学習活動の推進

- ・小笠地区には「老人会」のような集まりがあるそうです。菊川地区にもそんな会が欲しい。
- ・互いに助け合い、元気な老人が多い市になると良い。
- ・生涯学習はとても大事。講座もステップアップもたくさんありますが、参加者の大半は女性です。男性が参加しやすい講座があるといいですね。例えば、車のメンテナンス方法など…。
- ・ステップアップ講座の参加者が増えてよかったです。講座終了後は文化協会への参加を勧め、参加者同士の交流を深めていくと良い。
- ・ステップアップ講座、いきいきカレッジ菊川の楽しく学べる場の提供は必要。地域での学習活動もいろいろあり、楽しませてもらっている。

社会教育課（社会教育）に対する外部評価

④鑑賞機会の提供

- ・アエルでいろいろな催しをしてくれています。シニアの間では「昭和の歌謡…」が大変良かったと聞きました。次はいつ行われるかと楽しみにしている方々がいます。大変うれしいことです。
- ・菊川市にはアエルという素敵な会館があり、スタッフの皆さんは様々な事業を提供してくれます。来館者には個別の好みがあるため、なかなか来場者数の増加にはつながりにくいこともあります。
- ・アエルは市民にとって必要なものだと思う。経年劣化で維持管理の負担は少なくないと思う。収支状況が気になる。

⑤市民の文化・芸術活動への支援

- ・文化協会ががんばっています。文化祭他いろいろとありがとうございます。高齢化による会員の減少等課題はありますが、がんばってほしい。
- ・文化祭の来場者数の減少傾向には、高齢化はもちろん、開催日の天候が大いに関係している。来場してくださる方は楽しみにしてくれています。中身の濃いすばらしい文化祭にしてください。
- ・「文苑きくがわ」の発行、ありがとうございます。
- ・文化財ウォークは関心も多く、今後もいろいろなコースの提供をしてほしい。
- ・アエルに市民が行きやすい企画があるといいです。せっかくのアエルなので、もっともっと市民に近い存在となってほしい。

社会教育課（文化振興）に対する外部評価

⑥文化財の保存・周知・活用

- ・日々の生活が忙しく、なかなか市内の文化財に対しての関心が少ないことに気づく。
- ・旅行では全国の史跡を訪ねます。地元菊川市の歴史について、もっと関心を持つ必要があると反省した。これから市内の文化財等について学びたい。
- ・担当者の方々の地道な御努力には頭が下がります。文化財ウォークや梅まつりなどの企画はぜひ継続してPRを徹底し、様々な団体との横のつながりを持って来場者数を増やしてほしい。
- ・イベントでは当日何かプラスアルファがあって、参加者もちょっとびっくりがあると次回につながるかもしれない。例えば、梅まつりに着物で来場した人にプレゼントや、文化財ウォークのいくつかのスポットでお茶にちなんだプレゼントがあったり、参加して良かった感を高めてもらうアイデアがほしい。
- ・文化財の保存に御尽力ありがとうございます。
- ・「菊川歴史検定」が実施されていることは知らなかった。非常に良い試みだと思う。
- ・菊川市という狭い地域でも学術的価値の有無にかかわらず文化財は多くあり、それを市民に情報提供することは、菊川市に誇りを持ってもらう機会になるかもしれない。
- ・横地城跡に関して、ドローンによる全体測量を実施したが、広大な山城である横地城全体のジオラマ模型を作成したらおもしろいと思う。

社会教育課（スポーツ振興）に対する外部評価

⑦誰もがスポーツに触れあう機会の創出

- ・全体的にみて若い母親世代のスポーツ実施率が低いと感じる。忙しい毎日の生活だと思いますが、若いころからの運動習慣が中年以降の成人病などに大きく関係してきます。例えば、親子で体を動かす機会をつくる等きっかけづくりをすることも大切です。
- ・スポーツイベントに積極的に参加するのは幼・保・小学校低学年くらいまで。特に親子イベントはそうですから楽しくスポーツができるものを数多く開催すれば、少しずつでも身体を動かす楽しさが広がっていくのではないかと。
- ・少子高齢化は止められないから参加者が減っても、スポーツの楽しさや健康に必要だということがわかれば少しずつでも広がると思う。
- ・全世代的に健康への関心が高まってきていて、体づくりやスポーツのイベントに参加する人が増えている。情報提供や実施の内容については充分評価できる。

⑧スポーツ団体・スポーツ活動への支援

- ・高齢者は増えているのに高齢者参加の多いグラウンドゴルフ団体の解散があった。原因は何なのか、関心がある。
- ・高齢者にとって社会とのつながりは大切。高齢者、特に男性のスポーツへの参加はどのようにしているのか知りたい。
- ・静岡県市町村駅伝では、スポーツ協会をはじめ実行委員、各団体の皆様にはとても感謝している。子どもたちの走る姿はとてもいきいきしていた。
- ・少子化が進み、スポーツ少年団や中学校の部活での活動が少なくなり、素質のある子が埋もれてしまわないか心配。
- ・子どもの体力が低下しているとのこと。体育の授業は重要。

⑨スポーツ活動の場の提供

- ・市内の体育施設の老朽化が目立つ。市民からいろいろな要望があるが、予算の関係で思うように修繕ができない。少しずつできることから予算と相談しながら進めるしかない。
- ・マラソン関係のスポーツイベントはたくさんあり、知名度がある。
- ・建替えの堀之内体育館の設備等楽しみです。施設の老朽化に伴う、対策費用の増加はいたしかたないと思う。安全に利用できるようにしてほしい。

図書館 事務事業に対する外部評価

⑩子どもの読書活動の推進

- ・子どもの読書活動の推進は、長年のテーマで大変大切なこと。昨今の子どもを取り巻く環境に鑑みても推進の継続を望みます。
- ・乳幼児からのブックスタートをはじめとする、親子読書の推進を切に望みます。
- ・地域図書館として菊川・小笠図書館による、子どもたちへの様々な施策の推進活動に敬意を表します。
- ・小さい頃から本に触れることは、子どもの言語の発達を促すだけでなく、想像力や思考力、また集中力の向上につながります。引き続き子どもたちに読書を広める活動を積極的にお願いします。

⑪読書機会の提供と読書活動の啓発

- ・読み聞かせボランティアと連携し、それぞれのスキルアップ研修等々推進を図ることが大切です。聞き手の子どもたちと読み手の大人が絵本に興味を持ち、選書する力を高めることを望みます。
- ・デジタルの普及が急速に進む中、電子図書の導入は、日々忙しくて本に触れる機会が少なくなった方にとっては、本に触れる機会を増やすきっかけになる。今後は、さらに電子図書で読める本を増やしていただき、誰でも気軽に利用できるようにして欲しい。

⑫読書環境の整備

・施設の老朽化等ハード面での課題は多々あります。

・図書館事業としてのおはなしステーション・子ども図書館・例会お話し会等々ボランティア団体との連携が長年の活動を通して成果が表れていると思います。既存のボランティア団体や新たなボランティア団体の育成連携を進めていくことが大切であり、楽しみです。

・様々な方に読書をしていただくきっかけ作りとして、電子図書の導入はすごく効果的だと思う。ただ、紙で読む良さもある。特に絵本は、次にどんな絵が書いてあるんだろうとワクワクしながら家の人とページをめくることは、ただ絵本を読んでもらうだけでなく、大好きな家の人と思いを共有しながら見ているといううれしさにもつながる。絵本というツールを通して親子の絆も深まっていく。今後も定期的に紙の本の購入も行なってもらい、沢山の方に利用していただける図書館にしていっていただきたい。

総評:教育委員会全般について

・菊川市は貧乏な市ですか？未来を担う子どもたちのためなら予算を組んでいただければいいでしょうか。今、菊川市にはネイティブのALT(外国語指導助手)は1人しかいない。せめて各中学に1人配置していただければ、ローテーションで小学校にも行くことができ、ALTとの交流により小学校で始めた外国語活動や英語への子どもたちのやる気が増すと思う。

日本語がペラペラなALTでは、子どもたちが日本語で話しかけ、ALTも日本語で答えてしまう。JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)では、教師も生徒も英語で話している。ALTが日本語ができるようになるまでは英語で話しかけることが必要。また、ALTは3～5年で変わるため語学の勉強が継続される。ぜひALTをあと2人配置してください。

・学校の運動会のやり方が変わってきた。2学年ごと、時間を決めて行うと聞き驚いた。私は昔の人間ですが、運動会の子どもの笑顔や子どもの成長を見るのが楽しみで朝からお弁当作り、PTA、子供会と一日楽しんだものです。「世の中が変わったから」と言葉を濁していませんか？「世の中が変わったから」だけではないことがたくさんあるように感じる。

・子どもたちの教育に携わる方々に感謝する。

・教育行政にたずさわる皆様の努力に感謝します。これからも子ども達が安心して、教育を受けられる環境整備をお願いします。

・菊川市学校の未来を考える会について

児童数の減少が予想されるが、小規模校地域に住む人たち(私自身も)は学校統合は避けたい。できるだけ先延ばしにしてほしいと思っている。小規模特認校制度の導入や小小連携(小規模校の学校間交流の実施)など、できる限り現在の小学校が存続できるような対策を教育委員会が取っているので、不安や不満は少ない。

将来、小笠南小学校が複式学級になった時は学びの庭構想を生かして、小中一貫校をつくらせてほしい。

・子ども読書活動の推進について

「読書活動は子どもの感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにする」と教育振興基本計画にかかれている。豊かな学びで歩き続ける人づくりにとって大切な要素だと思う。

「乳幼児期からの読書習慣の定着」「学校図書館と公立図書館との連携」「移動図書館の充実」「読書ボランティアグループとの連携」などとの施策も重要である。図書館職員、特に学校図書館と公立図書館をつなぐ司書の方に活躍してほしい。

・「人」を育てる、そして「人」が育つという大きな課題について、とやかく言える立場でも、立派なものでもありませんが、長く人生をやっている一番の財産はものすごく多くの人との出会いだと思っている。親、兄弟から始まり、学校での仲間、そして社会へ出てからの出会い、誰しもが良くも悪くも交わることが成長する糧になると思う。人格形成においても大きな要素である。「人」は一人では生きていけないと教えることが大事。少しでも人に認めてもらえれば一人前です。

総評:教育委員会全般について

・良くも悪くもいろいろな情報があふれている世の中、技術も物も次から次へ出てきます。今の子どもも大人もそれに振り回されて、自分の頭で処理できなくなるのではと心配になる。そこに教育者又は教師が必要になる。

・様々な取組について、丁寧に点検・評価されている印象を抱いた。全体としてA評価が多いこともプラスと捉えたい。反面、評価のための評価にならないように、次年度に向けたチャレンジポイントをそれぞれの部署において掲げることにつなげたい。特に、目標値に届かない重点施策については、具体的な手立て・工夫を「成果達成に向けた今後の取組」に示したい。

・令和7年度新しい「教育大綱」が示され、令和8年度には「教育振興基本計画」が策定される。本評価が次年度の点検・評価に生かされ、新しい教育計画へと繋げていくことができるような好循環をつくりたい。

・菊川市の学校教育ビジョン「Learn & Grow 学びを通して成長するまち」を広く市民に周知し、多くの市民が当事者となり、未来の担い手となる子どもたちの成長を支える菊川市型のシステムづくりを強く進めていただきたい。

教育委員会自己点検・評価報告書

令和 8 年 8 月

菊川市 教育委員会 教育総務課

〒 437 - 1514

静岡県菊川市下平川 6225

TEL 0537-73-1136 FAX 0537-73-1119

E-mail : kyouiku@city.kikugawa.shizuoka.jp